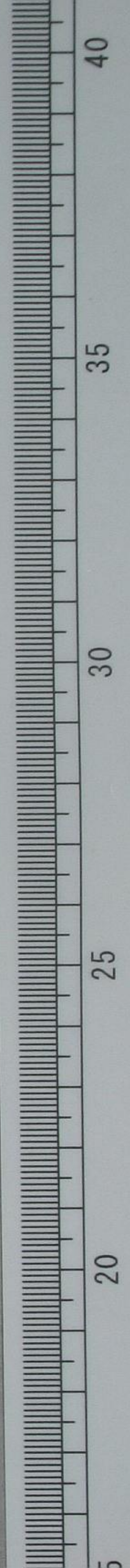




偶評
 續今體名家文抄
 土居
 輯
 四五

柳田文庫
 文庫11
 A1395
 6



文庫11
A/1395
b

折田泉文庫

鳥居光華

美作國勝南郡
高取岡共藏本

偶評 續今體名家文抄卷之四

土居光華編選

◎◎工業新報緒言 大鳥圭介

鳥居光華ノ
妙世皆ナ之
ヲ知ル用筆
妙蒸ミ未
ダ知ラザル
ナリ余今評
之ヲ顯ス
然ニ其言太
ク實決シテ
韓文公于襄
陽ノ文ヲ評
スル例ニ非ル
ナリ

維新ノ中興、指ヲ屈スレバ、既ニ十歳、世態變換。人心開明、各家ノ著作、翻譯、日ヲ逐ヒ、月ヲ重テ、駸々疊々、其世教ヲ誘掖スルノ功、洵ニ鴻大ナリ。加之近歳、都鄙ノ新聞、大小ノ雜誌、相競クテ、世ニ行ハル筆鋒、ハ詞壇ニ戰ハシ、文苑ヲ翰林ニ翻ハシ、五ニ相頡頏シ、テ以テ文華ヲ開達ス。而シテ夫ハ政治

續今體名家文抄卷之四

ハ談高尚ニ涉リ、法律ハ論幽微ニ入リ、自由ハ理
民權ハ論世ニ出テシヨリ、大ニ人心ヲ感動シ、一
種奇特ハ精神ヲ腦裏ニ腦胎セリ、然レモ其所説
多クハ歐米近世人時運ヲ觀テ之ヲ俄ニ東方未
開ハ國ニ傳ヘムトスル一急癖ニシテ、其結果實
益ヲ得ルハ期却テ悠遠遼濶ナルヲ概スルニ
邦人ハ氣象慧敏ニシテ、輕躁事ヲ創メ、端ヲ開クニ
勇ニシテ、業ヲ遂ケ、功ヲ成スノ力ニ乏シ、故ニ言
論喋々、人ヲ驚カシ、脅カスモ、其營生ハ計畫ニ至
テハ、往々迂濶ニ屬シ、自家ノ衣食ヲ營ム能ハザ

滿朝官吏皆是ナリ

名言千載新ナル如シ

ルモノ、亦希ナラズ、夫レ衣食住ノ人生ニ最緊要
ナルハ、素ヨリ論ヲ俟タズ、古人言ハズヤ、衣食足
テ後、禮節ヲ知ルト、天下ノ民、各自カニ食ミ、人熱
ニ倚ラズ、而シテ飢寒ノ患ナキトキハ、則チ其言ヤ
善、其行ヤ篤、廉耻ヲ破ラズ、法網ニ罹ラズ、安居身
ヲ全フスベシ、一國ニハ是ハ、如クハハ、富強安
寧、鼓腹ハ以テ昇平ヲ唱フベシ、然ラバ、衣食住ノ
安樂自在ハ、如何メ之ヲ得ム、曰ク、瑣小ナリトモ、
公正ノ一工、一業ヲ興シ、恒産ハ道ヲ修メ、拮据能
ク、勞ニ耐ヘ、百折撓マザルニアリ、工業ノ名ハ、太

主意

廣漠ニノ、細大之ヲ網羅スルノ稱ナリ、夫ノ油ヲ
絞リ、紙ヲ漉キ、鑽ヲ穿チ、石ヲ截リ、又鍛冶ノ刀ヲ
鍊ヒ、陶工ノ皿ヲ燒キ、漆戸ノ帛ヲ染メ、酒戸ノ酒
ヲ釀シ、工匠ノ家ヲ建テ、橋ヲ架シ、婦女ノ糸ヲ繰
リ、機ヲ織ル、等、千種萬類物トシテ、工ナラザルナ
シ、但時代ノ古今ニ因テ、其之ヲ行フ手段、器具精
粗同ジカラザルノミ、衣ヲ縫フ、一本ノ針、草ヲ薙
ル、一把ノ鎌、菜ヲ斷チ、魚ヲ割ク、ハ、小刀圃ヲ耕
シ、田ヲ耘ル、ハ、一單犂モ、太古未開ハ世已ニ之ヲ
用、井、而、水車、織機、舟舶、橋梁、世ニ隨テ、精ヲ加ヘ、

意至テ筆隨
フ文章此ノ
如シ毫髮遺
憾ナシト云フ
可シ

巧ヲ重シ、近世ニ至リテハ、伎倆ヲ海外ニ擬シ、夫
ハ風車、氣球、噴水、時表、千里ハ音信ヲ瞬間ニ傳
ル、ハ、電線、大洋ハ波浪ヲ自在ニ航破スル、ハ、汽船
一條ハ線路、以テ萬客ヲ載セテ、走ル、ハ、鐵道、千軍
萬馬ヲ一擊ニ鏖殺スル、ハ、巨砲モ、亦、外、是、ハ、唯一
器械、ハ、之、但、運用ノ便否、巧能ハ多寡ニ至テハ、其
相距ハ、雷霄壤ハ、之、ナラズ、蓋シ器械ノ妙ハ、人力
ヲ用ウル微ニメ、切ヲ奏スル多ク、光陰時間費ス
少クメ、功績ヲ顯ハス大ナルニ在リ、又工ノ妙ハ、
昔時無用トシテ棄擲セル者ヲ、舉テ有用ノ料材

筆氣快活宛
ト瀛車瀛船
ニ乘ジテ相
思ノ人ヲ訪
フガ如シ妙
々

昔者内務少
輔林公曾テ
余ト語テ曰
富國ノ要只
有工自國ニ

足リ外國ニ
求メザルニ
在ト是明治
初年ノ事今
其ノ談ヲ思
フニ果テ信
ナリ

道理

方法

ト為シ、賤劣ノ組物ヲ製シテ、精美ノ奇貨ニ化ス
ルニ在リ、此編、先ツ其簡ニシテ解シ易キ業ヲ録
シ、順序ヲ逐テ、精妙深遠ノ技藝ヲ報告シ、以テ、四
民授産ノ一助ト為サンコトヲ希フノミ。

◎◎民間雜誌發端 福澤諭吉

人我カ為メニ要務ヲ達スレバ、我其勞ニ酬ハザ
ル可ラズ。此理ニ基キ、政府、我方為ニ要務ヲ達ス
レバ、亦其勞ヲ償ハザル可ラズ。故ニ之ヲ償フモ
ノハ、固ヨリ我當然ノ義務ナリ、ト雖モ、其之ヲ償
フノ方法善ト不善トハ、我亦之ヲ論ゼザル可ラ

政府地券ヲ
作リ人民等
有ノ權ヲ有
セシメシト欲
シ百方勞苦
然シテ人民
却テ之ヲ好
マズ只金納
件ニ関スト
為ス人民ノ
愚亦甚イカ

ズ。令熟、史籍ヲ按ズルニ、西洋諸國多クハ、商ヲ以
テ國ヲ立ルノ風ナレド、或ハ又政府ニ若干ノ地
面ヲ有シ、其租ヲ以テ、悉皆ノ要務ヲ達スルニ充
ルモノアリ、我日本ノ如キモ、昨年地券ノ令ヲ發
セザルノ前ハ、則チ是ナリ、國內ノ地面ハ、悉ク政
府ノ所有ニシテ、百姓ナル者ハ、之ヲ耕シ、之ヲ子
孫ニ傳ヘ、亦之ヲ賣買スルノ權アレド、地面ニ限
リ自他ノ家産ヲ扱フ如ク、唯意ノ欲スル所ニ從
フヲ許サズ、或ハ畑地ニ家ヲ建ルヲ禁ジ、或ハ故
ナク地面ニ植付ヲ為サシムルヲ禁ジ、或ハ永代ノ

我天皇陛下
ハ六十餘國
ノ地主ニシ
テ三千萬
人民ハ皆其
ノ奴隷ノ如
シ

續令體召家奴抄糶之四
賣却ヲ禁ジ、或ハ米ヲ作ラシメシガタメ、雜穀蔬
菜ヲ植ルヲ禁ズル等百般ノ制禁アツテ、百姓ハ
一時ノ佃客、政府ハ永世ノ地主タルガ如ク、唯百
姓計リ、年貢ヲ取テ、全國文武ノ費用ヲ償ヒ、商
モ工モ、殆ト無税ニテ、數千百年ノ年月ヲ移セリ。
然ルニ、近頃政府勉メテ、舊來壓抑ノ政ヲ改メ、人
民ノ權利ヲ伸張スルニ眼ヲ著ケシヨリ、田地ノ
如キモ、其持主ノ私有トナリ、他人商工ト同ジク、
政府ノ費用ヲ等分セシメント欲シテ、地券ハ法
ヲ發シ、一方ニハ證券、其他物品ノ運上ヲ取テ、商

農ヲ以テ國
ヲ建シ國常
ニ貧ク商ヲ
以テ國ヲ建
シ國常ニ富
ト是東洋諸
國大抵各弱
ナル所以ニ
シテ西洋諸
國ノ盡ク富
強ナル所以
ナリ執政者
宜ク注目ス
ベキ要點

税ノ法ヲ始メ、政費ハ片荷ヲ百姓ヨリ卸シテ、是
ヲ商工ニ擔ハシメ、トスルハ、謀ノ善キモノト
云フ可シ、然ルニ、今日實際ニ行ハル處ヲ見レ
バ、商税先ツ行ハレテ、農租未ダ其實ヲ減ズルモ
稀ナリ、故ニ商工ハ、殆ト片荷ヲ擔ハシメテ、
百姓ハ、未ダ其卸ス可キ片荷ヲ卸サズ、政府ハ、恰
モ一荷半ハ荷物ヲ費スモノト云フ可シ、且往日
ノ百姓ハ、一荷ノ荷物ヲ擔ヘ、國中唯此ノ一荷
アルノミニテ、此ノ一荷ヲサヘ擔ヘバ、他ノ商工
ハ、無税ナルヲ以テ、無税ノ者ニ向テ、產物ヲ賣

以上従前方
法已ニ善ナ
ラザルヲ論
ス

以下後來方
法最モ諸論
ヒザル可カ
ラザルヲ論
ス

其事易クシテ、其利饒シ。此際ニ當テ、百姓ハ、僅ニ残喘ヲ喘キ、地獄ニ佛ノ恩ヲ為ス。ナリシガ、今日ハ、則チ然ラズ。商工既ニ有税ノ世トナレバ、百姓ノ有様、残喘ヲ喘グニ所ナク、荷物ハ、釣合、愈一方ニ偏ルモ、ト云フ可シ。加之茲ニ一種ノ大艱アリ。今ニ當テ之ヲ救ハザレバ、後來如何トモ為ルコトナキ。不測ノ禍ヲ醸ス。アアラシ。全體年貢米ノ出ル源ハ、一處ナレバ、其ハ是ヲ費ヤス。所ノ趣ヲ察スレバ、遣拂ニ二様ノ區別アリ。即チ其一ハ、全國ノ政費ト云ヒ、其二ハ、地方ノ政費ト云フ。

往日幕府ノ時代ニハ、參勤交代、江戸定詰、屋鋪ノ普請、海岸ノ警衛等、是レ所謂全國ノ政費ナリ。大名在邑中ノ入用、藩士ノ給祿、公廨ノ入費、城郭ノ修理、飢饉ノ救助、堤河筋ノ普請等ハ、所謂地方ノ政費ナリ。然ルニ、幕府ノ末世ニ至リ、政府ノ遣拂ヒ宜シキヲ失ヒ、全國政費ノ高ト此ノ費ヲ以テ買ヒシ。政治ノ價トフ比較スレバ、非常ノ相違ニテ、人民保護ノ價ノ高キヲ、高山ノ如クナリシヨリ、終ニ幕府モ轉覆シテ、今ノ時節トナリタルナリ。又今日ニ至リ、地方ノ政費ヲ尋レバ、大名ハ華

族ト為テ、東京ニ行キ、藩士ノ給祿ハ、十分一ト為
リ、公廨ノ入費モナク、城郭ノ普請モ止ミ、飢饉ノ
救助モ減ジ、堤河筋ノ普請トテモ、昔ニ變リテ多
ク、錢ヲ費スルモアラズ、加之、藩士ノ内ニテ、少シ
ク、才智アルカ、僅ニ元金アル者ハ、皆去テ東京ニ
出掛ケ、地方ニ舊ノ政費ノ潤澤ナキノミナラズ、
錢ト共ニ、智惠分別モ、地ヲ拂フテ、他處ニ散ジ、タ
ルナリ、昔ハ兎ニ角ニ、一石納タル米ノ内、四斗ハ
東京ニ上リテモ、六斗ハ處ニ残ラシユエ、其米相
應ノ人物モ、出來テ、其地ノ利益ヲ謀リシニ、廢藩

是先生地方
分權論ノ起
ル原縁

言罵詈訛
ルト雖モ其
理乃チ具

置縣ノ今日ハ、形勢全ク往日ニ違ヒ、隔地ニ此キ、
縣廳ヲ立テ、官員ノ多キヲ好ムニ非ザレバ、僅ニ
四、五十ノ旅役人、一期半期ノ流レ渡リ、田國順禮
ハ、氣前ニテ、處ノタメヨリ、身ハ御為メ、大藏省ノ
首尾ヲ見テ、一年僅ニ二、三萬ノ金ヲ遣フモ、壽命
ハ、知レタル侍カ、十分一ノ米ヲ潰スモ、一人九厘
ハ、學校費ガ、底ルモ、何ゾ、其地方ヲ潤スニ足ラン、
故ニ處相應ノ人物モ、處相應ノ金錢モ、何時トナ
ク、皆東京ニ輻湊シ、田舎ノ衰微ハ、日ニ増シ、六七
年ヲ出スシテ、田舎ノ光澤ヲ東京ニ移シ、頭肥尾

瘠ノ勢ヲ成ス一必セリ。今日ニテモ。全國政費ハ
行衛ヲ尋レバ。外國人ハ給料ト為リ。官員ハ月給
ト為リ。諸官省ハ石室ト為リ。官學校ハ建築ト為
リ。其狀恰モ。田舎ハ實ヲ取テ。東京ハ花ヲ為スガ
如シ。都會ハ鐵橋ハ耀キテ。馬車ヲ走ラシムルモ。
山路ハ獨木橋ハ腐レテ。徒渡ヲ許サズ。京橋ハ櫻
ニ。花ヲ関ケバ。田舎ハ田地ニ草ヲ生ジ。民ハ竈ハ
烟ハ止テ。ストヲブハ。烟ハ漫ヤト上レリ。左レバ
今我國ノ急務全國ノ政費ヲ減ジ。地方ノ政費ヲ
増シ。都會ノ富ヲ助ケズシテ。田舎ノ富ヲ興スニ。

島津老公、
憤嘆スル所

民權有志、
慷慨スル所

筆鋒銳利、
破レザルナ

在リ。今ニ當テ此ノ謀ヲラザレバ。後日噬臍ノ悔
ヲ生ゼン。此一場ハ民間雜誌ノ筆戰ヲ向ケント
スルノ場所ナレバ。纔ニ端ヲコハニ發スルノミ
福澤諭吉

○憲法類編緒言 江藤新平

福岡孝悌

楠田英世

往昔大寶養老ノ二朝修定スル所ノ法典廢弛ス
ル既ニ久シ。中葉而降。豪族政ヲ為シ。家其俗ヲ殊
ニシ。國其風ヲ異ニシ。槩ニ皆慣習ヲ以テ法ト為

續修辭源卷之四

ス。之ヲ無法ト謂テ可ナラン。今ヤ王室中興宇
内ヲ混一シ。嚮ノ豪族ナルモノ。悉ク郡縣ニ歸シ。
政令一途ニ出ヅ。是ニ於テ。凡百ノ法度。内ハ則チ
大寶。養老ハ舊ニ溯リ。外ハ則チ西洋諸國ノ粹ヲ
采リ。頗ル裁定スル所アリ。抑西洋諸國。法ヲ設ク
ルノ體。其別六アリ。曰國。曰刑。曰治罪。曰民。曰商。曰
訴訟。而。其歸ヲ要スルニ。國民ノ二者ニ出デス。
今朝廷裁定スル所ノモノ。端緒多シト雖モ。亦以
ノ二者ヨリ外ナル者。莫シ。然レモ公文ニ散在
シ。未ダ哀彙シテ一部ノ書ト為スモノ有ラズ。因

入題

筆意周匝

テ國民ニ綱ヲ立テ。門類ヲ分テ。而メ之ヲ匯集シ。
慶應三年十月ヨリ。明治五年十二月ニ迄ル。名テ
憲法類編ト曰ヒ。之ヲ明法寮ニ備ヘテ。以テ法官
ノ查考ニ便ニス。若シ夫國運ニ漸次有リ。民智ニ
遲速有リ。法ハ則チ時ニ因リテ宜キヲ制シ。情ニ
適シテ義ヲ起コス。一朝ハ能ク全備ス可キモハ
ニ非ズ。必ヤ積ムニ歲月ヲ以テ。未タ完カテザル
者ハ。之ヲ補ヒ。未タ精カテザル者ハ。之ヲ覈ニシ。
然ル後チ不刊ハ大典始テ成ルハ。古今ハ同キ所
ナリ。然レモ王政維新ヨリ。未タ五歳ヲ出デズシ

續修辭源卷之四 九

國民二字收
得テカヨ
セ

極開化的
事ヲ序スル
ニ極不開化
的ノ上古ヲ
説ク妙

テ、而ノ憲ヲ創メ法ヲ立ルノ端、粲然トシテ條款
ニ具スル、業已ニ斯ノ如トキハ、則チ其文質ノ變
ヲ觀テ、以テ國運ト民智ト、日ニ開明ニ進ミ、而ハ
大典ハ成ルヲ告ケル、亦遠キニ非ルヲ徵ス可シ。
明治六年三月司法卿江藤新平司法大輔福岡孝
悌明法權頭楠田英世等同撰

○英國議院章程序 原漢文 細川 潤次郎

八百萬神ハ高天原ニ會議スルヤ、邈タリ推古ハ
朝豐聰耳ハ皇子憲法ヲ作其ハ第十七條事獨斷
ス。バカヲズ、宜ク衆ト之ヲ辨論ス。バシノ語アリ。

議事ノ開閉
ヲ以テ抑揚
文ヲ行ル其
法太々善シ
但筆力ノ暢
達ナラザルヲ
恨ム

後世武人擅制モ亦評議評定ハ目アリ、蓋シ相ヒ
會シテ事ヲ議ス代トメ之ハ無キナシ、第別ニ其
制ヲ設ケズ、効モ亦隨テ少シ。維新前有志ノ士、始
テ會議ノ制ヲ唱ヘ、聖上即位ノ初、又五條ヲ誓ヒ、
以テ衆議ニ詢リ、公論ヲ採リ、大旨ヲ為リ、次テ議
事體裁ヲ設ケ、調ヲ諸官ニ取ル、而メ予ノ不肖モ
亦之ヲ其間ニ承ケ、諸同僚ト議事章程數條ヲ艸
シ、集議院ヲ建テ公議人ヲ召ス、然ルニ事、秘建ニ
係リ、細論シテ之ヲ審釋スルニ違ハテズ、夫レ數
條ハ、副急ノ具タルニ過キズ、會議ノ效尚ホ少シ。

乃于字好

集議院終ニ廢セラレ、公議人四散、而ハ聖旨ハ向
 フ、所、民情ハ趨ク所、沮スルヲ得ベカ、ラズ、乃チ地
 方、官、會議、及ビ、元老院ノ設アリ、此ノ二會、各議事
 章程アリ、前日ニ比スレハ備レリトス、然ルニ議
 事ノ際、情勢萬變、而ノ章程ノ條數限リアリ、予其
 ノ用ニ足ラザルヲ恐ル、歐米諸國ノ如キ、議事ノ
 制ヲ遵用スル已ニ久シ、各議事章程全書アリ、苟
 モ事、章程ニ係ルモノ、蒐羅遺サズ、而ハ本邦之レ
 ナ、シ、予カ友、村田君、頃、英國議院章程、全書ヲ譯シ、
 將ニ諸ヲ世ニ公ニセントス、其ノ原本、即英國下

而ノ一句下ヲ起ス

入題

関鎖

院常ニ用ウル所ノモノ、而シテ議院ノ制、英、實ニ稱
 首タレバ則其ノ良制タル復タ疑フ可キナシ、若
 シ資テ以テ我章程未ダ及バザル所ヲ補セバ、則
 會議ノ效、必ズ將ニ負ニ前日ノ上ニ出ルモノハ
 ラ、ト、ス、村田君ノ譯、豈ニ夫レ、此ニ意アルカ、世
 已ニ、議法司法ヲ以テ、三大權ノ二トナシ、而シテ議
 法章程ヲ用キ、司法々律ヲ用ウ、章程ノ法律ト始
 ヲリ其間ニ軒輊スベキモノナシ、但章程法律ニ
 比セバ、條緒固ヨリ少、而シテ之ヲ作ル較易シ、是ヲ
 以テ、人率テ之ヲ輕視シ、僅々數條ヲ以テ足リト

三千五百萬人同歎

ナス而ノ潜心苦慮其ノ全部ニ涉リ以テ事ニ臨
ミ蹉跌ナキヲ要スルヲ知ラズ嗚呼此ハ會議ハ
制歐米諸國ニ比テ未ダ慙色アルヲ免レザル所
以ナルカ明治八年十一月細川潤次郎識

○會社辨叙

澁澤榮一

文モ亦靈妙

靈妙ノ智ヲ稟ケ天地ノ間ニ立ち造化ノ功用ヲ
補弼シ萬物ノ化育ヲ賛成スル之ヲ人ノ任ト云
フ而シテ其任ヲ有スル者相聚リ相資ケテ一地
方ニ特立シ卓然他ニ愧ルナキ此レ是ヲ國ト云
フ故ニ其國ノ盛衰榮辱單ニ其人ノ智愚勤惰ニ

人間ノ責任

論頗ル幽遠ニ涉ルヲ覺

關ラザルナシ其任タルヲ重ク其責タルヲ大ナ
リ蓋シ造化ノ功用ハ生々ハ妙理ニ由リ萬物ハ
化育ハ一元ハ真實ニ基ク能ク其理ニ體シ其實
ヲ擴ムルハ人生自然ノ當務ニシテ農工商賈ノ
力作販鬻スル私利ヲ營ムガ如キモ其實ハ物産
ノ蕃殖ヲ勉メ交易ノ亨利ヲ得ル原始ニシテ即
チ其國ノ盛且昌ナル所以ノ基礎ナリ左ハハ人
タルハ任責ヲ盡サンニハ唯能ク其國ハ人民ト
相待テ盛衰榮辱ハ相關ル所以ハ理ヲ曉リ各其
職業ニ服事シ自修自營ノ道ヲ勉メザルベカラ

一段收束自修自營ノ四字乃今上ヲ收メ下ヲ送

スナリ文法
見ルベシ

ス。既ニ斯ノ理ヲ曉ル。獨力單任ハ。協同戮力ニ如
ガ。ルヲ知り。徒ニ之ヲ遠大ニ求メ。之ヲ迂濶ニ失
スル。イナカルベシ。惟ルニ開市以來。人々稍通商
ノ便ヲ唱ヘ。奔競趨爭シテ。共ニ其利ヲ求ルヨリ。
漸ク彼我交換ノ利ヲ享シ。人生ノ洪益日用ノ至
便ヲ得ルニ至リ。世道ノ開明。駸々乎トシテ。日ニ
進。月ニ盛ニ其勢得テ。過ムベカラズ。其流化モ。
亦前日意想ノ外ニ出ツ。然ニ。我邦從來。沃土ヲ以
テ。宇内ニ冠絶シ。他ノ供資ヲ仰ガザルヨリ。通商
ノ法ニ於ルモ。亦自ラ外國ノ如ク。精且密ナラズ。

我邦商賈大
病源

慨々嘆々

余昔年一會
社ヲ開ク大
ニ商業ヲ營
ナマント欲
ス然ルニ理
財其法ヲ得
ズ忽。類廢
顛覆知已
百托ニシキ
手他人ノ困

加之商賈孤立シ。各自小利ヲ營。協同戮力シテ。大
利ヲ謀ル。理ヲ曉ラズ。往日ノ舊習ニ依テ。現今
ノ當務ヲ處ス。是故ニ互市ノ權利唯彼ニ在リテ。
常ニ其弊弄ヲ受ク。其間立會結社。商業ノ繁盛ヲ
謀ル。交通ノ利便ヲ論ズル者アリ。ト雖モ。概ネ孟
浪不稽ニ屬シ。或ハ公權ヲ紊リ。或ハ法制ヲ斁リ。
互ニ相障礙シテ。終ニ共ニ樹立スル能ハズ。甚シ
キハ。他人ノ財本ヲ資用トシ。姑ク我營生ニ供ス
ル。計ニ過ギズ。於是乎流通便ナラズ。物産殖セ
ズ。自修自營ノ道ヲ失ヒ。繁盛殷富ノ源ヲ塞ギ。彼

既ラ讀セリ
今此文ヲ讀
ミ覺エズ態
汗滿背

人生々ハ妙理一元ノ眞實殆ンド將サニ絶ハト
ス、安ソ其ハ功用化育ヲ補賛スルハ責ヲ問ニ職
アランヤ、既ニ然ラバ天稟靈智ノ存ズルモノ希
ニシテ、國亦從テ衰辱ヲ免レズ、是レ其素法定規
ナキニヨルト云凡、其實ハ職業ニ從事スル者之
ヲ反躬セザルニ出ヅ、豈其責ヲ免ル可ケシヤ、苟
モ能ク之ヲ憂ヘバ、須ク其理ヲ索メ、其法ヲ考フ
可キナリ、是レ會社辨ヲ刻シテ、世ニ公スル所以
ナリ、讀者能ク此理ヲ考究シ、此書ニ就テ、其要務
ヲ了得シ、眞理ニ從ヒ、實法ニ據リ人々ハ所以ハ

入題

々照應

收得甚佳

起得非然作
文ノ軌範ト
ナスベシ

責ニ任ジ、以テ自修自營ノ道ヲ擴充セバ、嚮ハ障
礙スルモノハ暢達シ、壅塞スルモノハ快通シ、交易ハ
亨利、物産ハ蕃殖モ、亦日ヲ數ヘテ待ツベシ、而シ
テ國ノ盛昌固ヨリ期スルニ足ンカ、此書譯既ニ
成ル、聊カ其要ヲ提シテ、之ヲ卷首ニ書シ、以テ世
ノ職業ニ服事スル者ヲシテ、其任責ノ重且大ナ
ルヲ知ラシムト云爾、明治四年辛未六月青淵蒞
澤榮一謹識

◎人間交法總論

兎玉 淳一郎

一、國ノ文明開化ハ、必ズ一家ノ内ヨリ始マリ、他

讀入禮名家文少卷之四

受得テ死モ好

收得テ亦佳

人ノ交接往來ハ、必ズ夫婦ノ間ヨリ起ル。蓋シ、閨門ノ近ヲ正シクスルニ、非ザレバ、以テ一國ノ遠キニ致ス。トナク、配偶ハ親ヲ厚クスルニ、非ザレバ、以テ他人ハ疎ニ及ブ。トナキナリ。然ラハ、則チ閨門善法アルハ、乃チ文明開化ハ、跬歩、配偶眞愛アルハ、乃チ交接往來ノ根本。凡ソ、宇内文明開化ト稱スル諸國、已往將來ノ政治ノ偉業ヲ宏ニシ、極品ニ登ル者、閨門夫婦ハ、交際此レ其發軔ナリ。故ニ余今此書ヲ譯述シテ、世間ニ公布スルハ、全ク世間ノ諸君子婚姻ヲ以テ微少ノ事ト為ス。ト

大主意

余自昔女大學ニ評シテ曰昔時歐米各國其風俗ノ如ク、漆ノ如キモノヲ以テ奴隷トシ、今時我邦及ビ支那其顔花ノ如ク玉ノ如キモノヲ以テ奴隷トシ、又ハ玩弄物トス。色ヲ以テ其人ヲ累ハス東西一般

母ク、又細君ヲ以テ玩弄ノ物ト均シクスル。ト母キヲ望ム。且其ノ未婚ノ前ニ方ツテ、必ズ先ヅ自己ノ力ニ妻ヲ聘シ、之ヲ愛護スルニ足ルヤ、否ヤヲ顧ミ、而後密ニ聘セント欲スル所ノ女ノ學徳性質等ヲ察シテ、其志ヲ定メ、乃チ所望ノ女ト、與ニ室食ヲ同フシテ、天壽ヲ終ヘルノ計ヲ為サバ、夫婦同等ハ、天倫始テ茲ニ定マリ、艱難相救ヒ、祥福相得、又彼ハ邪婦淫女ニ惑ハサルハ、ハ憂ナカハルベシ。其ノ自ラ奉ズルニ于ケルヤ、夙ニ興キ夜ニ寢ス、敢テ家業ヲ怠ラズ、禮義ヲ守ラバ、自ラ是

讀入禮召家文少卷之四 十五

男女室ニ居
レハ人間最
上ノ真樂器
ルニ我日本
國中三十萬
人共ニ得ル
モノ歎カ
ル可シ

レ妻ヨリ愛敬ヲ受ルノ本體ナリ。其妻ヲ愛スル
ニ于ケルヤ、務メテ心豊ニ、情厚カラシメバ、荒陋
類風ヲ為サズ。是ハ如ニシテ、一家ヲ建テ、家職
ハ務ハ、其官吏商賈農家百工ヲ分ツナク、居住ハ
地ハ、其繁華僻隅貧瘠富饒ヲ論ズルナク、何邊ニ
住テモ安カラザルナク、何事ヲ為スル樂シカラ
ザルナク、然リ而テ世間一般此ハ風ニ入り、人々
必ス飲食ハ粗糲ヲ患ヘズ、衣服ハ樸素ヲ悲マズ、
日用ノ窮乏ヲ恨ムズ、只管道理ニ從ヒ、自他ハ自
由不自由ナルヤ、否ヤ、而已ヲ顧ミテ、善ク料理ヲ

一句上ヲ收
メ下ヲ起ス

景雲是レ王
說洪水是レ
反說

行ハ、漸次ニ夫婦ハ真道ニ進ムヲ得、而ハ女子
ハ為ニ婚ヲ求メ、男子ハ為ニ婦アラハトヲ欲ス
ル。父母ハ身ニ於テモ、何ハ樂カ之ニ若シヤ、是レ
國ヲ照スノ景雲ナリ。若シ夫レ已レガ細君ヲ虐
使スル、猶奴婢ノゴトク、已レ一人温飽ヲ求メ、
常ニ奢靡ヲ事トシテ、家業ヲ勤メズ、酣宴ノ場ニ
流連シ、已カ細君ノ空聞ニ於テ恨ニ泣クヲ恤ヘ
ザル者ハ、決シテ未婚ノ前、何ハタメニ妻ヲ聘ス
ルヤ、否ヤ、ハ志ヲ定ムルナシ、故ニ既ニ婚スル
後、艱難相救ヒ、祥福共樂シムト言フガ如キ、上

讀ハ禮記卷之四
十六

滔々天下皆
ナ是ナリ而
ノ官吏最モ
基トス全國
ノ洪水殆ン
ト那和時代
ノ汎濫防禦
スベカラサル
如シ

品ノ生活ヲ保ツベカラズ。或ハ邪婦淫女ニ惑ハ
サレテ遂ニ世間ハ輕侮ヲ受ケ、已レガ父母及ビ
外舅姑ニ焦心ノ苦ヲ與ヘ、遂ニ已レガ慈子孫ニ
憂患ヲ遺シ、或ハ國ノ公法ニ罰セラレ、若シ僥倖
ニシテ其罰ヲ免ル、天ノ罰決シテ避クベ
カラズ。是レ邦ヲ潰スノ洪水ナリ。前ハ所謂景雲
多ク民間ニ出ナバ、則チ人民ハ吉祥ナリ。洪水漫
ニ國內ニ溢ルハ、則チ人民ハ惡毒ナリ。請フ諸
君世間ノ景況ヲ通觀セ、玉景雲ト洪水ト孰レカ
多キ若シ景雲出ハ、則チ吾レ我が國ノ偉業ヲ

洪水ノ惡
毒ノミ

宏ニシ、而ハ極品ニ登ル。近キニ在ルヲ知ハベシ。
若シ洪水溢ルハ、則チ之ヲ防グハ方法ヲ為カ
ハルベカラズ。噫

○各國年鑑序 原漢文 中村正直

十餘年前、某氏始テ亞米利加合邦ニ航シ、歸レバ、
則満朝高貴日ヲトシテ、會聚、某氏ヲ延テ、新異ノ
事ヲ聞ント欲ス。某氏曰ク、彼土、件々我ト同ジ。人
ハ、則總々林々、街衢ハ、則井々、條々、家屋ハ、則堂廡
窓壁、花木ハ、則紅紫青綠、山ハ、則崔嵬崒岬、河ハ、則
淼漫浩汗、是レ皆、大抵我ト同キノミ。衆曰ク、然リ

那破倫和聖
頓何ゾ人ニ
異ナラン目
ハ乃チ横ニ
シテ鼻ハ乃
チ堅ナリ只
村智人ト異
ナルアルミ

讀ハ禮名家文以卷之四

一頓妙

孟子齊宣王
謂テ曰ク王
ノ臣其ノ妻
子ヲ其ノ友
ニ托シ楚ニ
行テ遊ブモ
ノアリノ章
ニ似タリ當
時座中景況
見ル如ク妙

ト雖モ豈ニ珍異ノ事新奇ノ談ナカラザランヤ。
請フ君恠ル勿レ。曰ク唯一事アリ。然ルニ恐クハ
諸公ハ怒リニ觸シ。敢テ言ハザルハ。蓋シ彼邦
大統領才德萬衆ニ逾ユ。其他居官ノモノ。祿位最
モ高キモノ。智最モ上。祿位最モ卑キモノ。智最モ
下。今我邦ニ觀ル。往々此ト正ニ相ヒ反ス。是ハ彼
我ハ大ニ異ナルモ。ハハ。一座相ヒ顧テ喏然言
ナシ。此書各國帝王統系ヲ録シ。政體官制民數貿
易等。瞭ト掌ニ指スガ如シ。真ニ居官者必携ノ書
ナリ。抑モ余是ニ由テ。慨スルアリ。夫レ國ノ強盛

希望懇篤
至ニ甚エズ

或曰某氏ハ
勝公ナリト

備麗富滿

ハ人。民。ノ。才。德。ト。居。官。者。ノ。公。平。ニ。由。ル。我。邦。果。テ
能ク。此。ニ。進。メ。バ。則。彼。是。大。異。ヲ。致。サ。ル。ニ。チ。カ
。ラ。ン。カ。而。メ。歐。米。各。國。ト。駢。比。シ。テ。愧。ナ。カ。ル。可
キ。カ。吾。友。川。路。君。寬。堂。此。ノ。書。ヲ。譯。シ。余。ノ。弁。言。ヲ
乞フ。蓋シ君意彼是ハ未ダ同シカラザルモ。ハハ
同ハセシト欲スルニ在リ。故ニ余喜テ之ガ序ヲ
為ス。明治七年三月下澣敬宇中村正直撰
○ ○ 博物新編補遺序 小幡 篤次郎
人。以。テ。知。ル。下。ナ。カ。ル。可。カ。ラ。ズ。知。ル。下。ナ。キ。ハ。禽
獸。ニ。近。シ。禽。獸。尚。知。ル。アリ。人。ト。シ。テ。知。ル。下。ナ。カ。ル。

續修辭源卷之四

眼耳鼻口皮
膚是ヲ五官
ト云フ心ハ
乃チ腦ニシ
テ五官ヲ使

可ケンヤ唯知テ而メ後天地大ナリ日月尊シ海
洋深ク山嶽高シ然リ而メ天地ハ大日月ハ尊海
洋ハ深山嶽ハ高唯造化之ヲ造リ唯人之ヲ知ル
故ニ萬有ハ高大無邊ナルモ造化ハ妙ト人智ハ
靈トニ較ブバ亦小ナルハ人ハ如キハ六
尺ハ微軀方寸ハ丹田ヲ以テ大ナルハ千億萬里
ハ遠キヲ知リ小ナルハ千億萬分ハ細ヲ識ルハ
シ其機タルヤ眼能ク見耳能ク聞キ鼻能ク嗅ギ
口能ク味ヒ皮膚能ク感ズ腦獨ル能ク此五者ハ
報告ヲ集メテ之ヲ處分スルヲ司ル故ニ苟五官

役スルモノ
ナリ佗ト同
格ノモノニ
非ルナリ

入題

ト腦トハ備具スルヲ用キテ盡ルナク
之ヲ大ニシテ極メテ何ゾ知ルノ難アラシ
ルヲ世人其心志ヲ昏墮シ其耳目ヲ蒙昧シ此靈
機ヲ遺ルト敵展ハ如ク瞥視シテ顧ミザル一
ル豈ニ悲マザル可シヤ是亦謂自暴自棄スルハ
人ナル歟英國ノ士合信氏支那ニ來ルノ後其邦
民ノ頑愚自甘ジテ文明開化ノ道ニ入ル能ハガ
ルヲ傷ミ博物新編ヲ著シテ窮理ノ端緒ヲ示シ
之ニ由テ物理ヲ推究シテ漸ク大知ノ域ニ進ム
可キ門戸ヲ開ケリ延テ我邦ニ至リ世ノ士君子

讀ハ禮記卷之四

讀ムモノ、格物窮理ノ要典トナシ、之ヲ珍藏スル
モノ以テカラズ、余ガ此書ハ英國ノ士「チャンブル
氏著ス所ニシテ、上ハ天文、地理、中ハ格物窮理、下
ハ動植物ニ論及シ、之ヲ終ルニ世ノ盛衰興亡、人
ノ身體靈心ニ至ルマデ、小冊子ニ説明シ遺漏ア
ルヲナシ、其學科千百區分アルノ序ヲ羅列シ、簡
辭約說極テ其要領ヲ知ラシムルニ注意シ、讀者
ヲシテ、西洋文明開化ノ由テ來ル所ノ原アルヲ
知ラシムベキ良書ナレバ、淺學不逮ヲ顧ミズ、之
ヲ邦語ニ翻譯シ、兒童未ダ博物新編ヲ讀ム能ハ

東

ザルモノニ告ゲ、以テ自暴自棄此靈機ヲ廢却ス
ルヲナカラス、ト欲シ、之ヲ同社ト謀リ、梓ニ
上セ、其名ヲ命ジテ、博物新編補遺ト云、慶應四年
戊辰中秋某日小幡篤次郎誌

◎◎修身論序

原漢文

中村正直

理ノ真ナル者ハ、世ヲ歴ル愈久ウシテ、而モ其ハ
傳愈播ク、漢土古聖相傳フル人心道心危微精一
ノ旨、天道善ニ福シ、淫ニ禍ヒスルノ義ノ如キ、昭

然日月ヲ掲ゲ古今ニ間ナク、遠近ニ隔テナシ、希
臘ノ古賢瑣刺底意拾ノ言ノ如キ、精氣光彩、千載

前聖後聖

珠壁交輝、
四字直ニ把
テ以テ此篇
ヲ評スベシ

小束

名言

新ナルガ如シ、以色列王大闢ノ詩篇、所羅門ノ箴
言ノ如キハ、八音合奏シテ、神人諧和スルナリ、珠
壁交輝ヤ、キテ、寶貝璀璨タルナリ、彌賽亞世ニ降
リ、救靈ノ道ヲ昭宜スルニ至ルニ迄シ、斯ニ真
ニ日光ヲ懸テ、幽闇ヲ破リ、生路ヲ開キテ、陰府ヲ
鍵スル者ナリ、唯其ハ真理ニ非ザル莫シ、是故ニ
世ヲ歴ル愈久シクシテ、其傳愈廣シ、其始テ世ニ
出ルニ當テヤ、仇敵其教ヲ滅ボサント欲シ、刑殺
窘逐、至ラザル所ナシ、然ルニ百試シテ、而ノ百効
ナシ、所謂窮ヲ薪タルニ指ス火ハ傳テ其ノ盡ル

句々富麗

ヲ知ラザルナル者ナリ、蓋シ嘗テ之ヲ論ズ、真理
ハ火ハ如ク之ニ敵スル者ハ風ハ如シ、風愈厲シ
クシテ、而ノ火益熾ニ、仇敵愈衆クシテ、而ノ真理
ハ試煉愈堅シ、遂ニ真玉燒ケズ、純金鎔セザル者
タルヲ致スナリ、嗟乎、天下真理ヨリ強キモ、ハ
テシヤ、而ノ豈ニ滅ボスベケンヤ、真理ノ事物ニ
寓スルモノ多シ、姑ク修身學ニ就テ之ヲ言ハシ、
學庸誠意慎獨ノ旨、宣尼忠恕一貫ノ訓、鄒孟氏良
知良能ノ義ノ如キ、直ニ天地ト與ニシテ、終始ス
可キ者ナリ、所羅門上帝ヲ寅畏スルハ、智慧ノ本

讀ハシテ體召旅
少卷之四
二十一

此内一語若
シ能ク用キ
得ル者アレ
バ品行天下
ニ高キ人ト
ナルベシ

又東

タルノ言、及ビ智榮愚辱、情貪勤富ノ箴、彌塞亞敵
ヲ愛シ善ク己ヲ滅ムモノヲ視ルノ訓、若ニ至
リテハ、豈ニ人倫ノ善教古今遠近ニ互ツテ、皆通
セザルナキ者ニアラズヤ、豈ニ真理滅セズ久ク
メ而メ愈播クノ明效ニアラズヤ、夫レ修身學ハ
希臘語ニ厄智加ト曰ス、倫常ノ道ト譯シ、又善ヲ
行フノ道ト譯ス、猶ホ人倫ノ善教ト曰フガゴト
シ、蓋シ其論ズル所、時代ニ隨フテ、沿革アリ、學者
ニ由テ意見ヲ異ニスト雖、然ニ其ノ中、含ム所
ノ真理ニ至テハ、太ダ徑庭ナシ、且ツ、近世ニ至テ

教法修身ノ
區別知ラズ
ル可カラズ

ハ、修身學、單ニ入道ヲ講ズルハミナラズ、必ず神
人ノ倫ニ及ビ、一ニ西教ト相ヒ、輔衛ノ世道ヲ助
ケテ、以テ上進スル者ノ若シ、但修身學ハ、人道ヲ
主トシ、西教ハ、天道ヲ主トシ、默示ノ教ヲ推闡ス
二ノモノ各專屬アリト雖、而レ其義相ヒ關係
シ、胥ニ其一ヲ缺クベカラズ、今西國ハ世ヲ輔ケ、
民ニ長タル者、國ヲ憂フル家ハ如キ者ハ、閱歴ハ
久キ、學問ハ深キ、遂ニ斷ノ倫理ハ、教法ニ原ガカ
ザル者ヲ以テ人ニ益ナク而メ國ニ害アリトナ
シ、萬口一辭ニ出ルガ如シ、故ニ今西國ノ學校課

讀入禮名家文少卷之四

嗚呼咏歎法
ヲ用ウ妙

スル所ノ修身學ノ書、一モ教法ニ原ヅカザル者
ナシ、而シテ茲ハ編ハ如キモ、亦其一テリ、嗚呼、真理
日光ノ如ク、天氣ハ如シ、混漾搖盪、六合ニ彌綸シ、
隙トハ透ラザルナク、空トハ填塞セザルナシ、人
苟モ曜靈ヲ沐浴シ、太和ヲ吸噓シ、以テ惟肖ハ體
ヲ保チ、真理ヲ含咀シ、善教ニ饜飮シ、以テ妙有ハ
魂ヲ養ハ、則豈ニ斯世ノ善人トナリ、以テ慶施
拜セテ家國ニ洽キヲ致スベカラザランヤ、
頃尾見某修身論ヲ譯シ、刻成ル、余其ノ後生ヲ資益ス
ル淺魁ニ匪ルヲ喜ビ、因テ此レヲ書シテ、以テ卷

入題

此篇凡六轉
文章宜々此
ノ如ク段落
分明ナルベシ

首ニ弁ス、明治八年一月十四日江都中村正直撰
○輿地誌略叙 原漢文 秋 月 種 樹
學問ハ、知識ヲ開達スルニ在リ、知識ヲ開達スル
ハ、宇内ノ地理風俗ヲ熟察スルニ在リ、其ノ開化
文明ナルモノ以テ法ト為スベシ、其ノ固陋頑愚
ナルモノ以テ戒ト為スベシ、在昔究理未ダ精シ、
カラズ、器械未ダ巧シナラズ、宇内萬國未ダ能ク
互通自在ナラズ、今也海ニ汽船アリ、陸ニ輟道ア
リ、四海兄弟、天涯比隣、地理ノ學是ニ於テカ講ゼ
ザル可カラズ、頃者、大學中博士内田正雄、輿地誌

讀八禮名家文以卷之四

或ハ泣或ハ
憤或ハ憾或
ハ快文大ニ
情アリ趣ア
リ

略ヲ著シ成ル序ヲ余ニ索ム余受テ之ヲ讀ム文
簡ニ而ノ事該挿ニ摸捉影畫ヲ以テシ人ヲシテ
跋渉親ク之ヲ視ハ想アラ使ム其深切ニ智識ヲ
開達スルハ意詢ニ嘉ス可キ也余嘗友人ノ海外
ニ航遊スルヲ送リ別ニ臨ミ泣キ且憤テ曰ク噫
余ヲハ十年少カラ使ムバ則君ト同ク行ク而シ
今老且病志未タ願ハ如キ能ハズ憾何シ云ハ可
ケンヤ顧テニ海内ノ廣キ余ト憾ヲ同スル者必
其人多カラシ蓋ズ速ニ此卷ヲ觀テ以テ快ト為
サバランヤ明治三年庚午臘月秋月種樹撰

萬國瓜分棋
時相競テ相
下ラズ是レ
人類ノ景情
乃チ開化進
歩ノ勢ヲ起
ス所以此論
恐クハ上帝
ノ意ニ當タ
ラズ

◎◎米利堅志序 原漢文 中村正直

希臘國ニ古ハ理學者アリ籍諾ト曰フ預ジメ後
世ノ事ヲ言ヒ曰ク今天下分テ邦國トナリ駢比
シテ立チ各律法アリ此レ彼レニ通ジ難シ故ニ
爭鬪止マズ若シ夫レ天下合同モノトナリ復タ
邦國ノ分チナク各生命福利ヲ享ケ相視ル同郷
ノ人ノ如ク羣衆ノ上一公法以テ之ヲ治ムルア
ラバ則チ庶乎クバ至治ノ世ト稱スベキナリ然
ルニ此レ吾ノ見ノヲ願フテ而シテ得ザル所ハ者
ナリト余始メ之ヲ讀ミ驚嘆シテ以為ラク此レ

讀入禮名家文少卷之四 二十四

則チ吾輩ノ今日見ンコトヲ願フテ而シテ未ダ得ザ
 ル所者ナリ而シテ二千年前ノ古賢早ク已ニ
 之ヲ見ンヲ願フカト又嘆メ以為ラク二千年前
 ノ人見ンヲ願フ所者ニシテ而シテ二千年後ノ人
 モ亦未ダ見ルコトヲ得ザレバ則チ此事乃チ幻想
 ニ屬スル母ラシカト既ニ而シテ又思フテ曰ク莊
 周言ハズヤ萬世ノ後而シテ一タビ大聖其ノ解ヲ
 知ル者ニ遇ハント是レ且暮之ニ遇フナリ夫レハ
 人壽ノ短促ヲ以テ之ヲ言ヘバ千萬年ハ太ダ長
 キ者ノ如シ天地ノ恆久ヲ以テ之ヲ言ヘバ則チ

萬世ノ後
 大聖其ノ解
 夫レハ知ル者
 人壽ノ短促
 天地ノ恆久

千萬世ハ只一晝夜ノ如シ二千年前ノ人其ノ願ヒ
 同ジキナリ二千年後ノ人其願ヒ同ジキナリ其
 間ニ生死スルノ人其願ヒ亦當ニ同カルベキナ
 リ則古今天下ノ同ジク見ンヲ願フ所者其レ
 豈ニ遂ニ幻妄ノ想ニ墮ケンヤ籍諾ノ預言其レ
 豈ニ遂ニ應驗ノ時ナカランヤ且ツ此事已ニ端
 ヲ亞米利加合邦ニ發スルナリ按ズルニ合邦ノ
 制民ニ等夷ナク君ハ世襲ニアラズ法ハ民ヨリ
 立チ權ハ上ニ操ラズ其ハ邦今三十七アリ而シ
 一ニ國會ニ統グ地幅員數千里ノ廣キアリ而シ

收東且字以
 一轉致
 ト云フベシ

讀八禮名家文少卷之四

一層更ニ一
意ヲ開ク文
ヲ作ルモノ
此ノ意正ナ
カルベカラ
ズ

河海陸路、舟車電機、聲氣相通シ、一體タルヲ成シ、
民三千有餘萬ノ多キアリ、而シテ一心一意上帝ヲ
奉事シ、善政善教福祉薦シ、臻ル幾シド、卅國一家
ハ如シ、允ニ此ヲ觀レバ、則チ籍諾ハ言已ニ其ハ
兆ヲ斯ハ一方ニ發スト、曰フモ、豈ニ不可ナラハ
ヤ、抑モ籍諾ハ天下合同一トナリ、復タ邦國ハ分
チナキヲ望ム所ハ者ハ何ノ故ゾヤ、夫レ禍亂ノ
源、及ビ戰鬥ノ無窮ニ相尋ク所以ヲ察スルニ、邦
國瓜分慕時スルモノアルニ由ルアラザルナシ、
蓋シ千百ノ邦國アレバ、斯ニ千百ノ君主アリ、此

是上帝賦ス
ル所人間ノ
本性只其ノ
中和ヲ得ザ
ルヲ憂ルナ
リ

引証

只是中和ナ
ラズ故ニ此
禍アルナリ
國ノ分離ト

邦ノ君ハ、彼邦ノ君ヲ駕セ、ト欲シ、此邦ノ民ハ、
彼邦ノ民ニ踰エ、ト欲ス、既ニ彼我ノ相形スル
者アレバ、輒チ已ニ鬪争ノ機中ニ伏ス、是ニ於テ
各富強ヲ求メ、競テ雄霸ヲ欲シ、彼此争奪山河分
裂ス、爾我報復、人民塗炭、慘マシヒカテ、其レ之ヲ
言フニ、忍ビシヤ、近歲日法二國ノ戰ヒ、人民ノ死
亡スル者、萬數ニ踰タリ、而シテ其ノ源ヲ推セバ、一
ハ拿破崙備士馬格二人ノ互ニ雄霸ヲ争フニヨ
リ、而シテ一ハ二邦ノ民、各上流ヲ争フニヨルナリ、
法國日國ノ名廢滅シテ一合邦トナルノ時至ル

讀入禮名家文少卷之四 二十六

合併ニシテ
ナルナリ

ニアラザルヨリハ、則チ彼此報復ハ戦ヒ必ズ釁
ヲ窺フテ發シ、人民死亡ハ禍ヒ、時トシテ息ムナ
キナリ、此ハ一事ニシテ古今ヲ概スベク、四海ヲ
推スベシ、若シ夫レ天下ニ邦國ノ名アルナク、而
ソ億兆ノ民皆一公法ノ下ニ統ベ、人々其ノ生命
福利ヲ安享シ、相視ル同郷ノ人ノ如ク、戦鬪永ク
息シ、妖星影ヲ藏メ、仁愛相施シ、瑞日輝ヲ揚グ、此
ノ如キハ則チ至治ノ世ニアラズシテ何ゾヤ、宜
ナルカチ二千年前ハ古賢早ク已ニ此ヲ見シ、
願フヤ、嘗テ友人ト談此事ニ至リ、以為ラク、我邦

禾
ダシナリ

照應

論頗ル高
ニ入ル遂ニ
迂濶ニ墮ル
ナカラシカ

封建廢シ郡縣トナリシヨリ以來、闔國人民漸ク
合一ノ氣象ヲ顯ハス、封建ノ時ヲ回視スルニ、東
西侯伯各相屹立シ、人民勢ヲ作シ相ヒ讓ラザル
ガ若シ、今ヤ奧羽武相、信越備長薩肥士民一トナ
リ、混合社ヲ結ビ冥然想忘ル、此レ已事ノ明驗ナ
リ、故ニ若シ天下萬國帝王君長會議協同我ガ邦
ハ近事ニ倣ヒ一疏ハ上帝ニ上リ、其ハ私有スル
所ハ土地人民ヲ奉還シ、盡ク公法ハ下ニ服シ、俄
英法日等一切國名ヲ廢シ、一大國會ヲ立テ、俄人
英官トナルベク、法人日官トナルベク、唐人朝鮮

讀入禮名家
少卷之四
二十七

若シ幸ニ守
内此ノ如キ
域ニ進マバ
余願クハ米
利堅國ニ官
セシ

照應

入題

官トナルベク、印甸人合邦官トナルベカラシム
バ、則チ從前ノ怨恨念、恚猜忌侮慢ノ諸惡皆息ム
而シテ、合同協和、友愛公平ノ諸善其レ興ラシカ、然
ニ此レ尚ホ數千年後ノ事ナリ、其レ豈ニ亦吾人
ノ見ンヲ願ヒ、而シテ得ベキ所ナランヤ、頃者
余ガ友岡天爵君、其ノ友河野通之ト、格乙堅薄米
利堅國史ヲ譯シ、余ニ叙ヲ屬ス、余固ヨリ籍諾
言其ノ端ノ合邦ニ發スル者ニ感アリ、因テ其請
ヲ辭セズ、而シテ之ヲ書シテ以テ諾ニ塞ツ、明治六
年膺月上澣、敬字中村正直題ス、

兩條對起

我邦三千年
來ノ人民何
ニ其ノ不幸
ノ甚シキヤ

此際只隱律
ヲ解ク

〇〇治罪要錄序

玉乃世履

國明律アリ、而シテ治罪官吏法ニ依リ、處分ス、若シ
違法アレバ、官吏訟ヲ受ク、而シテ人民以テ冤ヲ雪
ギ、枉ヲ伸ルヲ得、則チ人民ノ幸福大ニナリ、國隱律
ヲ用キ、而シテ人民ヲ知ル能ハザラ、使ムレバ、人
民仰テ以テ法トナシ、惟レ命是レ從ヒ、遂ニ冤枉
ニ陷ル、則チ人民ハ不幸モ亦大ニナリ、治罪ノ法人
民ノ為ニ設ケ、而シテ人民ヲ知之、知ル能ハザラ
使ム、隱律ノ人民ニ害アル、豈ニ慨歎セザル可ケ
ンヤ、我明治政府、蓋シ此ニ見ル、乃チ往時幕政ノ

讀入禮記名錄

昔時例アリテ律ナシ

此所只明律ヲ解ク

束收

入題

隱律ヲ用ウ、而シテ人民知ル能ハザルモノ、性法ニ
依據シ、人情ヲ酌量シ、其ノ仍ル可ニ仍ル其ノ改
ム可キヲ改メ、頒布、公告、細大遺ス莫シ、是ニ於テ
人民ノ法律ニ於ル、猶ホ雲霧ヲ披テ青天ヲ觀ル
ゴトシ、若シ人民枉ヲ受クルモノアレバ、法ニ依
テ上告、枉屈、必ズ伸ブ、新政ノ人民ニ幸アル至
リト謂フ可シ、頃者、山内豁朗君、其ノ編スル所ノ
治罪要録ヲ寄セ、序ヲ余ニ請、披テ之ヲ閱セバ、新
政、公布、事治罪ニ係ルモノ、分篇、類聚、能ク其要ヲ
録ス、所謂必用ノ編ナリ、世ノ治罪者、斯編ヲ熟讀

幸不幸ヲ
收得テ漏サ

我邦局勢ニ
變

文人ノ文法度
一々見ルバ
キアリ抱英

シ、善ク其法ニ通ゼバ、則人民幸福ヲ受ケ、而シテ治
罪ノ職、過チナキニ幾ラシカ、是ニ於テカ言フ時
明治十年五月ニアリ、大審院二等判事玉乃世履
撰

○◎顯承述略序原漢文 重野安 繹

我邦ハ外國ト交通スルヤ、殆ハド令ニ二千載而
ハ、局勢凡ハ三變セリ、蓋シ開國以來、六百餘載ニ
シテ、始テ三韓ト通ズ、又六百餘載ニシテ、隋唐ト
通ズ、又一千二百餘載ニシテ、米歐諸國ト通ズ、三
韓ニ通ズルヨリ、工藝漸ク進ミ、隋唐ニ通ズルヨ

讀入新體名家文以卷之四

雄先生ノ文
ト自カラ別

リ、禮文漸ク進ミ、米歐ニ通ズルヨリ、禮文、工藝又
大ニ進ム。外交ノ果テ我ニ益アルナリ。然リト雖、
モ通アルスニ塞アリ、益アルスニ損アリ、通塞損
益ノ相ヒ因ル。即邦家隆替、治亂ノ由テ判スル所
ナリ。其塞ニ當テヤ、違言ヲナシ、尋戈ヲナシ、寇掠
侵奪ヲナス。是ニ於テカ、征討ハ舉アリ、膺懲ハ典
アリ、攘斥ハ令アリ、其ハ通ズルニ及ンデヤ、修信
ヲナシ、貿易ヲナシ、傳道教業ヲナス。是ニ於テカ
友邦ノ誼アリ、締約ハ規アリ、延聘ハ禮アリ、向ハ
仇敵之ヲ視スルモ、ハ變テ、昆弟ハ親トナリ、向ハ

是ニ於テ云
ト東シテ
又述ブ文散
漫チテ

頑固當時ノ
形情寫シ得
テ見ル如シ

夷狄之ヲ遇スルモ、ハ變テ、賓師ノ禮トナル。世徒
ニ今日外交ハ此ハ如キヲ知テ、而ハ中古以前亦
是ニ外ナラザルヲ知ラズ、崇神ノ朝、韓人始テ來
ル。世以テ、鬼物異物トナス。而ハ後ハ、工藝ヲ傳フ
ルモ、ハ即此レナリ。推古ハ朝始テ使テ、隋國ニ遣
シ、務テ書辭ヲ以テ、自ラ尊大ニス。而後ハ、禮文ヲ
受ルモ、ハ即此レナリ。近世ニ至ルニ、迄テ、一切外
人ヲ排斥シ、之ヲ詬テ曰ク、醜夷之ヲ憎テ曰ク、黠
虜之ヲ岸ニ礮スルモ、ハアリ、之ヲ路ニ及スルモ
ハアリ、方ニ且ツ、揚々色ニ誇リ、自ラ以テ計ヲ得

續古今體名家文少卷之四
三十

内閣氣習アリ

タリトナス、而ハ宇内ノ形勢、交通ハ情理、情乎ト
シテ、講セズ、噫亦危シ、今上祚ニ登リ政令一ニ歸
ス、天聖衰ヲ誘ヒ、百度ヲ改張シ、首トシテ四港ヲ
開キ、十有五國ト、交ヲ締ヒ、繼テ大臣ヲ差遣シ、以
テ信好ヲ修メ、學師工匠延聘相ヒ踵ク、凡ソ一技
一藝ノ微ヨリ、以テ政體軍制學術ノ大ニ至ルマ
デ、悉ク師法シテ之ヲ用リ、民始ニシテ駭キ、中ニ
ハテ疑ヒ、終ニハテ翕然之ニ從ヒ、唯及バザルヲ
恐ル、向ノ傲然自ラ尊クスルモ、今ハ則詘然自
卑ウシ、向ノ悍然厲色ハモ、今ハ則坦然虚心、虚

此ノ如キハ
文明ニ進ム
一非ルナリ
時勢ニ脅迫
カレシモノナ
リ

項針回環文
法愛スベシ

收束法アリ

入題

ハ弊ヤ、蕩鼻ノ弊ヤ、弱弱ナレバ則悔ラレ、悔ラル
レバ、則辱ラレ、蕩ナレバ、則情情ナラバ、則廢ル、廢
情ノ病内ニ動キ、而ノ悔辱ハ形外ニ應ズ、是ニ於
テカ、慨世者アリ、扼腕切齒、以テ禦侮自守ハ詭ヲ
唱フナレバ、則今日ハ通ハ、又將ニ異日ハ塞タラ
ントス、慮ラザル可ケンヤ、萩原好問、博古ノ人ナ
リ、史乘中事外國ニ關スルモノヲ、纂修シ、顯承述
略ヲ著シ、序ヲ予ニ請フ、受テ之ヲ讀ム、上古ニ始
リ、近世ニ至リ、修信通商、征服膺懲ノ類、網羅遺ス
靡シ、名テ顯承ト曰フモノ、蓋シ祖宗ノ貽謀ヲ承

續新體名錄披以卷之四 三十一

抑一段文章
ヲ以テ命ト
ナスモノニ
非レバ能ハ
ズ

總收完全

ケ。而。之。後。世。ニ。施。サ。ン。ト。欲。ス。ル。ノ。抑。テ。祖。
宗。ノ。貽。謀。得。ア。リ。失。ア。リ。其。ハ。得。ハ。之。ヲ。承。ク。失。ハ。
之。ヲ。舍。テ。而。メ。流。弊。ニ。至。ラ。使。ム。ガ。ル。モ。ハ。此。ハ。ヲ。
賢。子。孫。ト。謂。フ。一。家。且。ツ。然。リ。況。ヤ。一。國。ヲ。ヤ。吾。故。
ニ。古。今。外。交。ノ。三。變。ト。夫。ノ。通。塞。ハ。理。流。弊。ノ。由。ト。
ヲ。推。論。シ。斯。書。ヲ。觀。ル。モ。ハ。ヲ。考。フル。所。ア。リ。而。
ハ。擇。ヲ。知。ラ。使。ム。ナ。リ。是。ヲ。序。ト。ナ。ス。修。史。局。一。等。
修。撰。重。野。安。繹。撰。

偶續今體名家文抄卷之四終

學頭二句是
レ網以下百
千言是目
憐ト云ヒ小
ト云フ是レ
人ヲ感動セ
シム所乃作
者用意處
讀ムニ知
ラザル可カ
ラズ

偶續今體名家文抄卷之五間大風ニ答ク身所

○農ニ告ル文 福澤諭吉

憐ムベシ。田舎ノ小百姓。娑婆ノ地獄ニ陥リテ。五
反ハ田地ハ一人ニテ耕シ。八人ハ子供ハ夫婦ニ
テ養ヒ。米ヲ作レ。米ヲ喰ハズ。蠶ヲ養ヘ。絹ヲ
著ズ。嚴寒ハ風ニ吹カレ。炎暑ハ日ニ照サレ。額ニ
汗シテ作リ出シタル。其ハ米ハ。驚ヨリ。猛キ役人
ニ。掠メラレ。跡ニ残ルモハ。僅ニ。糠糠ハ。扱其

讀今體名家文抄卷之五

甚レキ云々
文法此ノ如
クナラザル
可カラズ然
ニ言語昇野
成島柳北輩
ノ云フベキ
所コレテ大
家學士ニ言
ニ非ズ文章
ノ品行ヲ害
スト云フベ
シ少年子弟

米ノ行衛ヲ尋レバ、二度モ三度モ、相場師ノ手ニ
掛リテ、行キ付ク先ハ、遙ニ東京、西洋作、ノ石室ト
為リ、英吉利風ノ錢橋ト為リ、船ト為リ、鍊砲ト為
リ、馬車ト為リ、洋服ト為リ、甚シキハ酒食、本手
ト為リ、テ藝妓ハ花、妾ハ給金、其外何事ニ用キラ
ル、ハモ、計ル可ラズ、又一方ニハ、華士族二百萬人
ハ居候、ヲ引受ケ、其飯米モ、二百萬石ニ下ラズ、厄
介トヤ、云ハ、喰ヒツバシトヤ、云ハ、ハ、十露盤ハ
玉ニ掛ラヌ話ナリ、梅雨ノキニ苗ヲ植付ケ、秋ノ
終ニ之ヲ取込ム迄ノ其間ハ、大風ニ恐レ、長雨

尤モ儼ノ可
カラズ

事實真ト雖
モ罵詈亦甚
シト云フベ
シ
讀來テ嗚咽
照應

ヲ患ヒ、稻ヲ見ル子ノ如ク、蝗ヲ惡キ敵ノ如
ク、秋ノ夜ニ、老若男女群テ成シ、松明トモシテ、敵
ヲ逐フモ、唯一穗ハ米ヲ失ハザラハ、カタメナリ、
然ルニ、其穗ヲ取上ケ、米ト為シテ、俵ニ作ルヤ否
ヤ大風ニ卷カル、ガ如ク、俵ハ飛テ行衛モ知レ
ズ、華士族ハ、蝗ハ長ニシテ、白米ヲ喰ヒ、青穗ハ汗
ヲ吸ハズシテ、伊丹ハ銘酒ヲ飲ミ、田舎ハ風ニ吹
カイシトモ、ナク、米ハナル木ヲ見シトモ、ナク、松
明モテ、逐ハハガハルハ、ミカ、大厦高樓ニ住居シテ、
無事安樂ニ此世ヲ渡ルハ、地獄ハ仕送ニテ、極樂

續今體名家抄卷之五

一轉何等巧
妙是文章
死活與奪權
縦ノ法ト云
フ又急那寛
受ノ法トモ
云フベシ敬
也服々

ノ世帯ヲ持ツモハト云フ可シ。斯ク痛マシク嘆
カハシキ議論ヲスレバ、日本ノ百姓ハ、世界第一
ハ不幸者ハヤウニ見ユレ。亦決シテ然ラザル
ノ理アリ。凡ソ世ノ中ノ物事ニ此處ト、彼處ト、界
ヲ立テ、此内ニハ入ルヲ許サズト掟ノ定ル
キハ、人情必ズ其内ニ這入タクシテ、其内ノ有様
ヲ羨シク思フモノナレ。其界ナクシテ、出入勝
手次第トアレバ、其入ルト入ラザルトハ、主人ノ
關ル所ニ非ズ。唯客ノ心任セナリ。今日本ニテ、貴
賤上下ノ差別アルヤウナレ。コハ唯舊キ惡風

續今體名家文抄卷之五

請來テ覽爾

太輔云々常
時指ス所ア

ノオモカゲノミニテ、其實ハ政府ノ命ニテ、四民
ハ別ヲ立テ、人種ヲ分チタルヲナシ。百姓ニ命ジ
テ、必ズ百姓ヲラシムルニ非ズ。士族ニ命ジテ、必
ズ役人ヲラシムルニ非ズ。貧人モ富人モ政府ハ
命ニ由テ貧富タルニ非ズ。役人ハ門モ金持ハ門
モ開放シテ、誰ニテモ、其仲間ニ這入り、更ニ差支
アルトナシ。今日ハ士百姓モ、明日ハ參議ト為ル
可シ。去年ハ太輔モ、今年ハ町人ナリ、貴賤ハ廻リ
持チ、貧富ハ順番面白キ世ハ中ニアラズヤ。石室
ニ住居シテ、馬車ニ乘リ、夕クバ、智惠分別ヲ出シ

讀論體名家文抄以卷之五

照應

古人曰文
字人ヲ使テ
怒ラシメ人
コ使テ泣カ
シメ人ヲ使
テ笑ハシム
ルモノハ妙
ト余此篇ニ
於テモ亦云
フ

テ、錢ヲ取ル可シ。富貴ノ門ニ門ハチキモハ、門
モナキ其門ハ、這入ルコトヲ得ザル者ハ、必ず手前
ニ、無學文盲ト云フ門アリテ、自カラ貪乏ハ門ヲ
鎖シ、自分ハ勝手ニテ娑婆ノ地獄ニ安シズルナ
リ。若シモ此ハ地獄ヲ地獄ト思ハ、一日モ早く
無學文盲ノ門ヲ破ル可キモハナリ。

○學問ヲ勸ムル文

福澤諭吉

兵學者ガ出陣スレバ、先ツ敵味方ノ地理ヲ調べ、
今夜ハ此村ニ陣ヲ取り、明朝此河ヲ渡リテ、後ニ
橋ヲ切り落シ、向ノ村ヲ燒拂テ、敵ノ不意ヲ犯シ、
兵糧ハ、村ニ有合ノ米ヲ用井、人足ハ、此村ニ百人、
彼ノ村ニ五十人、此ヲ爰ニ使ヒ、彼ヲ其處ニ用ユ
ベシト、獨リ心ノ中ニ目算ヲ立ルコト、之ヲ軍略ト
云フ。政治家ハ、政府ニ在テ、先ヅ人民ノ有様ヲ詮
索シ、今年ハ、此税ヲ増シテ、此費ヲ償ヒ、此ノ事ヲ
禁ジテ、彼ノ事ヲ許シ、此ヲ勸メテ、彼レヲ止メナ
リ。

文事ヲ談ス
ルニハ兵事
ヲ以テシ兵
事ヲ談ズル
ニハ文事ヲ
以テス文章
ノ趣向宜ク
此ノ如クナ
ルベシ猶雲
ヲ詠ズルニ
ハ花ノ如シ
ト云ヒ花ヲ
詠セバ雲ノ
如シト云フ
如シ乃チ主
容形容法
ナリ

蛟龍雲霧ヲ
得ル猶池中
物ニ非ズ人
間豈ニ同類
ノ籠絡ト成
ルベケンヤ

バ、此品ハ、騰貴シテ、彼ノ品ハ、下落スベシ。杯ト胸
算用ヲ運ラスト、之ヲ、政略ト云フ。戰場ハ人民ハ
兵學者ハ略中ニ籠絡セラレ、一國ハ人民ハ政治
家ハ胸中ニ進退セラル、者ト云フベシ。既ニ人
ノ胸一略ノ中ニ籠絡セラレテ、進退ヲ制セラル
。時ハ之ヲ活物體ノ人類ト稱スベカラズ、唯學
問ヲ勉強シテ、事理ニ通スル者ハ、能ク此籠絡ノ
外ニ運動シ、天下ノ形勢ヲ高キ處ヨリ臨見テ、此
勢ナレバ、必ズ戦争ナラシム。戦争始マラバ、何レハ
兵學者ガ如何ナル策ヲ用ルナラハト預メ之ヲ

戦争ヲ以テ
一時ノ慰ニ
供ス云々不
仁者ノ語ニ
似タリト雖
モ然ルニ高
世ノ士何モ
皆此ノ形情
アルモノナリ
深ク答ム可
カラズ況ンヤ
文勢自カラ
此ノ如ク成
リ來ルモノ
ヲヤ
又云ケナル
ベシ一語冷
笑

推察シテ、相撲芝居ヲ見物スルガ如ク、戦争モ却
テ一時ノ慰ニ供スベシ。又彼ノ政治家ノ所業ヲ
見ルニモ必ズシモ、公布ノ出ルヲ待タズ、大凡世
ノ中ノ有様ヲ察シ、此様子ニテハ、當年ノ政府ハ、
斯ル會計ナラン。人民ノ苦樂ハ、斯ノ如クナラン。
今年ハ此布告ニテ、先ヅ斯ノ如クナリ、来年ハ斯
ル有様ニ立至リテ、又云々ナルベシト、大抵目算
ハ立ツモノナリ、斯ノ如クナレバ、則チ他人ノ胸
中ニ籠絡セララル、トナフ。兵學者モ政治家モ却
テ此方ノ胸中ニ籠絡シテ、其所業ヲ見物スル者

讀ハ神體
五
五

然ラズ云
マ又筆一振

ト云フベシ、學問ノ勉強大切ナルニ非ズ。若
シ然ラズシテ、戦争ハ毎ニ恐レ、公布ハ度毎ニ驚
キ、一寸先キハ、暗ハ夜ハ夢中ニ、此世ヲ渡リナバ、
喜怒哀樂ハ、常ニ人ニ任セテ、一身ハ恰モ空處ナ
ルベシ。是レ學問勉強セザルベカラザル所以ナ
リ。

◎◎大槻磐水先生ヲ祭ル文

福澤諭吉

事ヲ為スニ外物ヲ目的トシテ、為ニスル所アル
事ハ、獨立ノ事ニ非ズ。獨立ノ事ニ非ガレバ、水

第一伏案

第二伏案

先入ハ父ノ
一ナリ故ニ
曰ク日本洋
學ノ先入ト
小年輩誤テ
混用スルコト

遠ニ持續シテ、其功徳ヲ後世ニ遺ス。是ラズ、名
譽ノ為ニ勉強セシカ、名譽ヲ得ルガ、勉強モ亦共
ニ止ム可也。利財ノ為ニ刻苦ヒシカ、利財ヲ取ル
ノ後ハ、又刻苦スルヲ須ヒズ。名ノ為ニモ非ズ、財
ノ為ニモ非ズ、正ニ獨一ノ個人ノ精神ヲ發達セシ
カ、為ニ勉強刻苦スル者ニシテ、始テ之ヲ不羈獨
立ノ士ト稱ス可キナリ。今ヲ去ル一凡ソ百年、我
日本洋學ノ先入タル、前野、杉田、大槻等ノ諸先生
ガ、始テ蘭學ニ從事セシカ、有様ヲ追想スルニ、
其事業ノ困難ハ、固ヨリ論ヲ俟タズ。事ノ大略ハ、
讀み難キ家藏以繼之也

讀み難キ家藏以繼之也

勿レ尋常
等ノ處ハ首
稱トカ先鞭
トカ稱スベシ

△世猶其
奇ニ驚ク百
年前其怪
シ歎トシ之
ヲ攢作スル
モ亦宜ナラ
ズヤ

蘭學事始ニ就テ見ル可シ。苟モ今ノ學者ニシテ、此蘭學事始ヲ讀ミ、海ヲ垂レザル者ハ、ナカレシ。可。當時太平ノ極度、無事ノ項上、天下ノ人心、唯舊物ヲ守テ、時論ニ安ズルノ最中ニ於テ、我國開闢以來、未ダ曾テ有ラザル所ノ新説ヲ、首唱スルナレバ、世人ノ耳目ニハ、當ニ其説ノ新ニシテ、奇ナルニ非ズ、却テ奇ニシテ、怪ナラザルヲ得ズ。之ヲ怪トシ、之ヲ攢シ、之ヲ斥シ、毫モ發論ノ自由ヲ得セシメザリシハ、時勢ニ於テ、又怪シムニ足ラザルモノナリ。天保年間、蘭學禁止天保年間蘭學禁止知ル推可シ、今ヨリ、遙ニ先人ノ心事ヲ忖度スルニ

揣摩至テ

收束

其唱ル所、新説ヲ以テ、一世ヲ籠絡セシメ、其ハ、敢テ望ム所ニ非ズ、唯世間ニ、此新説ヲ容ル可キ人、餘地ヲ得ルナレバ、乃チ以テ、無上ノ幸福ト為シタルナラシメ、況ヤ、之ヲ奇貨トシテ、名利ヲ求ルニ於テハ、萬々期スル所ニ非ザルハ、明ナリ。此困難ニ處シ、然モ一世ニ望ナキ時代ニ生レ、生涯ノ名利ヲ得ザルノミナラズ、故サテニ、之ヲ投棄シテ、願願ルナク、百折不挫、終身一日ノ如ク、人ヲモ畏レズ、世間ヲモ憚ラズ、其唱ル所ノ説ヲ唱ヘテ、倦マザルノ有様ヲ皮相スレバ、恰モ唯事

讀み體に敬以謹之

剛毅人士ノ
快樂トスレ
所自カラセ
人ト別ナリ
敢テ異ヲ成
スニ非ルナ
リ

以上盤水先
生ノ見最モ

高業最善世
ノ利達ニ求
アルニ非ル
ヲ論ズ
誰リヤ一句
正意ヲ迫リ
出ス

以下盤水先
生先鞭ノ切
今日ニ於テ
始メ見ハル
ヲ論ズ

難キヲ嗜テ、其事愈難ケレバ、之ヲ嗜ムル愈甚シク、却テ人間快樂ノ情ヲ解セザル者ノ如クニ、思ハルレ氏、決ンテ然ラズ。蓋シ、先人ハ、洋學ノ真理ヲ信ジテ、之ヲ疑ハズ、他人ノ之ヲ信ズルト、信セザルトハ、之ヲ他ニ任ジテ、心ニ關スルトナク、唯自己ノ精神ヲ發達スルヲ以テ、無上ノ快樂ト為シ、人心最高ノ部分ヲ養フノ外、餘念ナキ者ナリ。即チ外物ヲ目的トシテ、事ヲ為ス者ニ非ズ、為スル所アリテ、勉勵刻苦スル者ニ非ザルナリ、先人没シテ、年既ニ久シ、今日洋學ノ道漸ク隆盛ヲ

致シ、殆ト全日本國中、學問ノ面目ヲ一新シタルガ如シ、人事ノ一大變ナリ。然リト、雖凡ソ人間ハ、一事一物必ズ其原因ナカル可ラズ、今日ノ洋學、其路ヲ開キシ者ハ誰ゾヤ。嘉永以來外國交際ノ容易ニシテ、文物ノ頓ニ進歩シタルハ、何ゾヤ。他ナシ、我國文學者流ノ間ニ、積年一種ノ精神ヲ包藏シタルモノヲ、一時ニ發揚シテ、之ヲ傳播シタル者ノミ。假ニ寶曆明和ノ以前ニ、突然外交ヲ通ジ、外國ノ書ヲ齎ラシ、外國ノ人ニ交リ、我舊日本ヲシテ、直ニ彼ノ文明ニ接對スルトアラシメ

讀前體部家數以錄之五

蓋シ一層

首段第ニ次
此處發

政府ノ舉動
ニ驚キ官員

ナバ、全國ヲ舉テ、詮索スルモ、能ク之ニ應ズルノ
精神アル可キヤ、余輩斷シテ是レナキヲ証ス、蓋
シ、此精神ハ、即チ、洋學真理ノ精神ニシテ、其元素
ハ、遠ク先人ハ、腦裏ニ、在テ存シ、之ヲ、後世ニ傳ヘ
テ、其脈絡ヲ、絶タズ、以テ、今日、此道ハ、隆盛ヲ致シ
タルモ、ノ、ナリ、先人ノ、切徳、永遠ニ、持續シテ、洪大
ナルモ、ノ、ト云フ可シ、世人動モスレバ、其耳目ヲ、
有形ノ事物ニ、屬シ、政府ノ革命ニ、驚テ、之ヲ、偉業
ト稱シ、船艦銃砲ノ戦争ヲ見テ、之ヲ、大事件ト為
シ、政治上ニ、策略ヲ施ス者ヲ、崇メテ、之ヲ、智者ト

ヲ以テ才智
我倆大ニ過
ルモノアリ
トナスハ今
日ノ弊習ニ
シテ乃十年
屈奴隷根性
ノ增長スル
ナリ

千載知己地
下ノ盤公弱敵
鼻シテ拍手
スベシ

云ヒ、天下ノ人事ハ、恰モ爰ニ盡ルガ如クニ思フ
者ナキニ非ザレ、氏、改革ナリ、戦争ナリ、又政府ノ
策略ナリ、皆是レ人事ノ一部分ニシテ、其本ヲ尋
レバ、必竟人心ノ變動、發達無形ノ際ニ源セガル
モノナリ、而シテ我洋學ノ先人ハ、百年ノ上ニ在
テ、既ニ此人心變動ノ元素ヲ養ヒ、之ヲ傳ヘテ、後
世ノ今日ニ遺シ、以テ文明ノ路ニ、荆棘ヲ除キ、夕
ル者ナリ、之ヲ、彼ハ、數萬ハ、兵ヲ指揮シテ、能ク敵
ヲ、殺シ、一時ハ、勝ヲ、戰場ニ、決シタル者等ニ比ス
ハ、ハ、其事、輕重固ヨリ、日ヲ同フシテ、語ル可ラズ、

續今昔名家文抄卷之五

第二伏此處發

抑一段亦佳
筆意周匝而
盡

總收

先人之功業大ニシテ其德澤美ナリト云フ可シ
嗚呼先人ハ當時ニ在テ預メ今日アルヲ知リタ
ルカ假令ヒ之ヲ知ラザルモ今日ノ成跡ハ偶然
ニ非ズ先人獨一個ノ精神ヨリ發シテ其果ヲ結
ビタルモノナリ抑モ今日ハ文明固ヨリ其極度
ニ非ズ為ス可キハ事業ハ千ニシテ未ダ其一ヲ
盡カズ達ス可キハ路ハ百里ニシテ未ダ數歩ヲ
進メズ今ハ學者モ亦多事ナリト云フ可シ學者
勉メザル可ラズ其發論ノ奇タルヲ恐レズ其事
業ノ隆タルヲ憚ラズ一個獨立ノ精神ヲ發達シ

後進云々先
生亦此ノ謙
讓ノ語アル
福澤先生ノ
文章篇々快
ナラザルナ
然ル章法篇
法ニ至テハ
或金道憾ナ
キ能ハザル者
アリ此篇文
章議論并ニ
佳近來世上
得ガタキ文字

テ。傍。ニ。人。ナ。キ。ガ。若。ク。シ。以。テ。先。人。ガ。時。論。ニ。安。シ。
ゼ。ザ。リ。シ。摸。範。ヲ。學。ビ。ト。ア。ラ。バ。幾。バ。ク。ハ。之。ニ。耻。
ル。所。ナ。カ。ラ。ハ。平。古。ヲ。慕。ハ。ル。餘。ハ。ニ。兼。テ。又。自。カ。
ラ。誠。メ。ザ。ル。可。ラ。ザ。ル。ナ。リ。明。治。九。年。九。月。二。十。八。
日。故。大。槻。磐。水。先。生。五。十。回。追。遠。會。ニ。陪。ス。ル。ハ。榮。
ヲ。得。テ。謹。デ。記。シ。テ。以。テ。祭。文。ニ。代。ス。後。進。福。澤。論。
吉。拜。

○明治十年一月一日ノ文

福澤論 吉

新年改テ最モ分リ易ク解シ易キ一章ヲ作テ

之ヲ家庭叢談ノ編輯局ニ呈ス、文字ノ俗ナルヲ厭ハル、トナクバ、敢テ出版ヲ乞フ。

明治十年一月一日ニ逢ヘバ、十年ノ子供ハ、三千六百日ヲ生キ五十年ノ男ハ、一萬八千日ヲ過ギタリ、人ノ壽命モ、一年二年ト計フレバ、ウカク暮シテ氣樂ナレバ、幾時幾分ト十露盤ノ玉ニテ勘定スルキハ、甚ダ以テ忙ハシノ烟草ノム間モ油斷ノナラヌ世ノ中ナリ、左レバ、今十年ノ子供ハ、壽命ノ春ニシテ、正ニ進ムノ時ナリ、正ニ學ブノ時ナリ、後日ニ至リ、一家ノ主人ト為テ家ヲ治

此編實ニ分
リ易ク解シ
易シ然ルニ
余ハ當今在
廷官吏ノ只
分リ難ク解
シ難キヲ恐
ル

文章上下、
要扼

メ、兼テ又世ノ為ニ、働ク可キ身分ノ者ナリ、五十年ノ男ハ、壽命ノ秋ニシテ、今正ニ一家ノ主人ト為リ、今正ニ世ノ為ニ働キ、人ヲ教ヘ、人ヲ導キ、漸ク退テ、二代目ノ少年ニ譲リ、渡サントテ、其用意ヲ為ス者ナリ、斯ル有様ニテ、老少互ニ交代シ、少年ハ、却テ老人ニ優リ、子供ハ、却テ親父ヨリモ賢ク、孫ノ身代ハ、祖父ノ時代ニ十倍シ、明治三十年ノ世ノ中ハ、明治十年ノ有様ヲ顧テ、氣ノ毒ナリト思フノ勢ナラバ、今年ハ一月一日ハ、誠ニ必テ日出度クシテ祝儀ヲモ申ス可キハ、凡余輩ノ

續今體名家文抄卷之五

考ニテハ、何分ニモ期ル目出度キ見込ヲ立テ難シ。其次第如何ト尋ルニ、今ノ年分ノ先生達ガ能ク子供ヲ導キ、子供モ亦能ク學問ヲ成就シタル上ニテ之ヲ用ル場所ナキハ、當惑ノ至リナラズ。元來學問ト申スモノハ質ニモ置カレヌ、品物ナリ。之ヲ用ル場所アレバ、コソ、大切ナレ。其場所ナケレバ、之ヲ不用ト云ハザルヲ得ズ。火燧櫓ハ不用ナルハ、踏臺ノ代リニ用ユ可シト雖、其學問ノ不用ナルハ、眞實不用ニシテ、却テ身ヲ腦マ。ス。ハ。方。便。タ。ル。可。キ。ノ。ミ。士族ノ子ニ、學問ガ出來

此論起源

東坡居士曰
人生知字學
惠始

テ、官員タルヲ得ズンバ、必ず不平ナラン。田舎ノ商法學ヲ學デ、資本オクバ、必ず苦シカラシ。況ハヤ、水飲ミ、百姓ニ於テ、ヤ、百姓ノ子ガ、地理、歴史、暗誦シテ、畫學、音學ヲモ學ビ得タラバ、親父ハカツ、ダ、肥田子ヲ見テ、必ず之ヲ殺風景ナリト云ハ、ハ、左レバ、今ノ四十五ニシテ、能ク少年ノ輩ヲ教ル者ハ、御苦勞ナリト雖、其教ヘタル、學問ヲ用ユ可キ場所ヲ、用意シテ、之ニ授ルニ非ザレバ、後日ニ至テ、少年ノ者ハ、甚ダ迷惑致ス可キナリ。今年十歳ノ子供ガ、更ニ三千六百日ヲ過レバ、

學ビ得レバ
必ず殺印ヲ
云フベシ然
シハ、其子
ハ必ズ殺子
ノ生ルヲ十
キナリ心配
ニハ及バザ
ルベシ

續今體名家文抄卷之五

人材選舉法
ナシ是官途
僥倖ヲ望ム
者日ニ多キ
所以ナリ

二十歳ト為リ、漸ク父母ノ手ヲ離レテ、一人前ノ
男タル可キノ時ナリ。此時ニ當テ、其學問ヲ以テ、
政府ノ官員タラント欲スルカ、明治十年ニ於テ
モ政府ニハ、人物甚ダ多クシテ、餘アル程ナリ。況
ンヤ二十年ノ後ニ於テラヤ、容易ニ之ニ進ム可
ラズ、官員ノ席ハ二三萬ニ過ギズシテ、此席ヲ望
ム者ハ士族四十萬ノ外ニ、又人物モ多カル可シ。
假キ士族ノ老幼、役ニ立タヌ者ヲ除キ、之ヲ他ノ
人物ト差引シテ、現ニ官途ニ志シテ、他ニ職業ナ
キ者見ミテ、四十萬トスルモ、志ヲ得タル者ハ十

先生慣家法

分ノ一二足ラズ、席ハ一ニシテ之ヲ望ム者ハ十
ナリ。其有様ハ娘獨リニ、聳十人ナルガ如シ。故ニ
假令ニ運命強クシテ、幸ニ官員ノ席ニ列ルヲ
得ルモ、恰モ多勢ヲ拂テ、獨リ進ム。九人ヲ退ケテ、
獨リ聳タルハ、姿ニシテ、氣ニ濟マヌ次第ナラシム。
然レバ則チ學校ノ教師タラシカ田舎ニ行テ學
校ノ教師タルモ、月給ハ三五圓ニ過ギズ。明治六
年文部省ノ年報ニハ、各府縣生徒ノ數、百三十二
萬六千百九十人、之ニ費シタル金高、百五十七萬
圓餘。生徒一人ニ付キ、一年ノ間ニ、一圓二十錢ニ

續今體名家文抄卷之五

足ラズ、斯ル貪乏人ヲ教ル師ナレバ、其給料ノ少
キモ、當然、一ナリ、年報ニハ、教師ノ數、二萬七千
百名ニシテ、年中ノ給料六十二萬三千餘トアリ、
此割合ニスレバ、教師一人ニ付、一年所得平均二
十五圓ニ足ラズ、或ハ又東京ノ開成校、工學寮ナ
ヅハ、數十萬ノ金ヲ以テ、學校ヲ立テ、毎年生徒一
人ノ為ニ、幾十百圓ノ金ヲ費スヲナレバ、斯ル大
學校ニテハ、生徒モ仕合セ、教師モ仕合セナレド、
生徒ノ數ハ、三百人カ、五百人ニ過ギザレバ、此學
校ニ入テ、教師クラントスルモ、人數ニ限リアリ。

若シ學問眞
ニ成リ技藝
眞ニ熟セバ
誰カ教師タ
ルヲ望ミ誰
カ官員タル
ヲ望マシヤ

或ハ此類ノ大學校ヲ東京ニ十箇所モ設ケナバ、
教師ノ捌口モ増シテ、都合宜シカラント、雖モ其
費ハ、毎年幾百萬圓ノ高ニシテ、迎モ、今ハ日本ニ
ハ、行ハル可ラス、故ニ今ハ少年生徒ハ為ハ謀リ
後日ノ身ハ行ク末ヲ考ヘバ、官員ト教師ニハ先
ツ見込ナシト云ハザルヲ得ズ、然ハ則チ、田舎ニ
行テ工業ヲ起サンカ、深山ニ大木アリ、地ノ底ニ
金銀アレド、之ヲ伐リ之ヲ掘ルノ元手ヲ得ズ、寶
ノ山ヲ傍觀シテ、手ヲ空フスルカ然ラザレバ、幸
ニ親ヨリ譲リ受タル小金ヲ貸シテ、高利ヲ取ル

文情ヲ生ジ
情文ヲ生ス
此處是

一策アルノミ、左レ氏、高利貸シノ業ハ、學問
ノ勸ヲ用ルニ、及バズ、無學文、盲真ハ、盲人ニテモ、
能ク高利ヲハ、貸シタルモ、ハナリ、今ノ少年ハ、生
徒ガ二十年ハ後ニ、盲人ノ真似ヲセ、ハカ為ニ、學
問ヲ勉強スルモ、甚ダ不都合ナルモ、ハト云フ可
ク、余輩ハ、是レ迄ニ論シテ、今ノ少年ノ為ニ、學問
ヲ用ユ可キ場所ヲ詮索シタル氏、遂ニ高利貸シ
ノ一策ニトビメヲ指シタルガ如シ、淺マレキ次
第十リ、詰ル所學問ヲ教ヘテ、學問ヲ不用ニ為シ、
大切ナル學問ヲシテ、火燧掃ノ功能ヲモ得セシ

以上學問其
用所チキヲ
論ス

六條乃チ先
生ノ地方分
權論ナリ

一筆端ヲ改
メ前後ノ関
鎖ヲ成スウ
カ、字再
出更ニ妙

ハ、ガ、ル、者、ト、云、フ、可、シ、左、レ、バ、此、學、問、ヲ、シ、テ、有、用
ハ、モ、ハ、ト、為、ス、ハ、術、ハ、如、何、ト、問、ハ、レ、テ、之、ニ、答
ル、ト、甚、ダ、易、カ、ラ、ス、先、ヅ、其、大、方、ヲ、示、サ、シ、地、方、ニ
錢、ノ、落、ル、ヤ、ウ、中、央、ニ、金、ノ、集、ラ、ヌ、ヤ、ウ、地、方、ニ、細
ニ、事、ノ、起、ル、ヤ、ウ、中、央、ニ、大、ニ、業、ノ、起、ラ、ヌ、ヤ、ウ、地
方、學、者、ノ、散、ジ、テ、土、地、ノ、事、ヲ、行、フ、可、キ、ヤ、ウ、中、央
ニ、人、物、ノ、群、集、シ、テ、直、ニ、政、府、ニ、迫、ラ、ヌ、ヤ、ウ、願、フ
所、ノ、大、略、ハ、斯、ノ、如、シ、明、治、十、年、一、月、一、日、ヨ、リ、明
治、三、十、年、一、月、一、日、マ、デ、ハ、七、千、二、百、日、ナ、リ、七、千
二、百、日、ハ、ウ、カ、カ、暮、ラ、シ、テ、立、所、ニ、過、ギ、今、ノ、十、歲

引証

無金ハ獄屋
ヨリモ甚シ

先生地方分
權論アリ故
アツテ出版
セズ有モ者
宜ク請ト得
テ者ルヘシ

人子供ハ、三十歳ノ男ト為ル可シ。油断不可ラザ
ルナリ。既ニ今日ニテモ、學者先生ハ心事ヲ叩キ、
獄屋ニ入ルト。故郷ニ歸ルト。孰カ優ルト詰問ス
レバ、三年故郷ニ逗留スルヨリモ、寧三月獄屋ニ
入ル可シト答ヘリ。驚キ入タル次第ナリ。人情誰
カ舊ヲ思ハザラシ、然ルニ今此ハ生ハ故郷ヲ嫌
ム。獄屋ヨリモ甚シトハ、何故ゾ。他ナシ。地方ニ
金ト事ト必チカケレバナリ。但シ此議論ハ、一小冊
子ニ盡ス可キニ非ズ。余輩別ニ所記アリ。福澤諭
吉、

儒雅風流文
明會社亦尺
ク可リラサ
ル人

○文會演說

阪谷素

嚶々谷ヲ出ルハ、鶯、吻々野ニ鳴ク。鹿、其聲ヲ聽ク。
時ハ、皆其友ヲ求ム。況ヤ人、於テマ、然ル而シ
テ、尋常俗友、一時ハ用ヲ辨シ、一話ハ益アルモ、畢
竟木偶ハ精神ナキガ如シ。夫レ一觴一詠、交ヲ討
論ハ、間ニ深クシ、益ヲ爾雅ハ中ニ取リ、久カシテ
厭フナキ者、其レ唯文字ハ友ナランカ。抑文字ニ
異同アリ。曰日本、曰支那、曰歐米、其滿字、梵字ハ、今
通用ニ供セザルモ、亦一文字ノミ。文字ノ用、以テ
意ヲ通ジ、業ヲ廣ム、其異ナル。適ニ以テ其用ヲ廣

續今體名家詩卷之五

ワスル所ナリ、而ノ相忌ミ相毀ル、是何ゾ同室瓦
弟其面ノ異ナルヲ、責ムルニ異ナランヤ、文字ハ
交ハ、雅ヲ主トス、而ノ褊狹斯ハ如キ、其レ何ハ雅
ハ成カシ、近世文字ハ徒、習氣委靡漫然無益ニ從
事シ、其弊ヤ、傲暴殺伐ハ辭ヲ快トシ、遊逸艶冶ハ
語ヲオトシ、滌々乎往イテ反ルヲ知ラズ、又且日
ハ支ハ、撃チ、支ハ日ヲ朝リ、辯ヲ伎害排軌ニ費シ、
歐米學ヲ為ス者ハ譏笑ヲ致ス、而ハ歐米學ヲ為
ス者モ、亦其尚ニ僻シ、其好ニ阿シ、區々文字語言
ハ、間ニ於テ嫌疑ヲ生ジ、相輔カ相議シテ世用ヲ

小收

老儒先生ノ
言我輩謹而
聽カザル可
ラズ

其ノ句々異
稱ノ妙ヲ見
ルバシ

一折更ニ妙

是日支學士
ノ及ガル所

為スヲ思ハズ、嗚呼豈ニ嘆ズベキニ非ズヤ、夫レ
道ハ天下ニ一ニシテ、而ハ人異ニ、地異ニ、山河形勢異
ニ、風習語言異ニ之ヲ通ズルハ、文字亦異ナリ、從
容トシテ之ヲ觀レバ、梅ヤ、櫻ヤ、柳ヤ、桃ヤ、菖菖ア
リ、紅葉ア、花木芳艸、千種萬態、異葩映帶、殊蘆奇
綜、彼モ取ル可ク、此モ賞スベシ、美景勝情、目ヲ怡
シ、興ヲ遣ル、實ニ此ニアリ、天下ノ樂、豈ニ異ナ
ルニ在ルナラズヤ、夫レ他山ハ石以テ玉ヲ攻ク
可シ、芻蕘ノ言以テ治ヲ輔クベシ、况ヤ知識非凡
人ニ於テヤ、歐米ノ人皆數國ノ學ニ通ズル

續今體名家詩卷之五

道德材智ニ
如カズ君子
ハ才子ニ及
ハズ

注意

美詞止上

ヲ貴ブ。其日本ニ在ル者。日本ヲ學ビ、支那ニ魯西
亞ニアル者。支那魯西亞ヲ學ブ。敢テ偏見私意ヲ
其間ニ著ケズ。我皇國有識ノ人ニソ、褊隘伎倆益
ヲ異ニ棄テ、損ヲ同ニ取リ、夜郎自ラ守ル。所謂和
シテ同セサルノ、君子國ニシテ、此ノ如キ、豈ニ愧
ジベキニ非ズヤ。同社諸君ノ此會ヲ開ク、其レ此
ニ見ル有ルカ。語ニ古今日支歐米ヲ分クズ、體ニ
詩文叙事議論ヲセズ、唯其佳ナル者ヲ公選シ、尙
モ文字ハ雅ニシテ、一理ヲ存ズル者舉テ之ヲ取
ル。是ニ於テ、か山ヤ、岵岵水ヤ、決洋蒼々ハ、松其色

何等樂事

反振一筆忽
子結局ヲ作
ス如

叙事文

ヲ自由ニシ、艶々ハ花、其態ヲ自由ニシ、蟲聲禽語、
各其趣ヲ自由ニシテ、以テ其歡ヲ呈ス、所謂文ヲ
以テ友ヲ會シ、友ヲ以テ仁ヲ輔クル者ニ非ズヤ。
花晨月夕、毎月一會會、其勝ヲ追テ、其地ヲ定メズ、
助ヲ杯酒ニ假リ、興ヲ年華ニ資リ、其情ヲ融冷シ、
其精神ヲ慰養ス、主トスル所ハ、其レ唯相益スル
ニ在ル。ハ、夫ハ長飲大醉和氣ヲ失シテ、威儀ヲ
亂ル若キハ、是野蠻ハ陋習、請フ寶之初筵ハ、四章
ヲ賦セ、ハ、阪谷素。

○白河樂翁公ノ遺事 依田百川

此文ヲ作ル
所以

余曾テ岩倉
大臣ニ上ル
詩アリ云ク
千萬利民氏
却苦新奇生
盡信洋書前
豈富國非難
事一掃驕奢
便有餘陳

論取ルニ
足ラズト雖モ
執政者知ラ
ザル可カラズ

仁人徳澤亦
大ナル哉

鎖港時代ノ
經濟

續今體名家抄卷之五

白河樂翁公源定信ガ善政美事ハ世ニ記セシモ
ノ多ケレバ今更言フニ及バズ唯世ノ人ノ徧ク
知ラズシテ當今ニ至ルマデ東京人民ノ利益ヲ
得ルモホアリ公ガ老中タリシ時務メテ節儉ヲ
行ヒ奢靡ノ風ヲ戒ラレシガ此時田沼氏ガ奢侈
ノ後ナリケレバ上下共ニ無益ノ費用夥シク殊
ニ江戸市中所入用ト唱フルモノ一ヶ月莫大ノ
高ナリシヲ町奉行ニ命ジ嚴ク之ヲ省減セラレ
シニ奉行公ノ旨ヲ受ケ痛ク舊習ヲ改メシカバ
毎月若干金ヲ減ズルヲ得タリ公之ヲ聞キ給ヒ

天此金ヲ三分高シ二分ヲ地主ニ割戻シ一分ヲ
留メテ市中救助ノ蓄トスベシト下知シ所入費
ヲ取立ルニ件ノ法ヲ以テ二分ヲ其地主ニカヘ
シテ別ニ取立ルニ及バズ其一分ハ町會所ニ留
メ非常ノ豫備金トス此ノ法行ハレシヨリ明治
維新ノ時マデ連綿トシテ絶ツナク蓄フル所
ハ金七十萬金ニ及ビ凶災アル毎ニ市中ニ假小
屋ヲ作り窮民ヲ養フテ數千人ニ及ビ或ハ窮民
ノ食ニ乏シキモノアレバ一家ノ人口ニ應ジテ
米ヲ分チ與フ世ニ穀倉ト稱スルハ是ナリ又件

續今體名家抄卷之五 十九

豫備金ヲ借シテ、利子ヲ收ムルニ豪商、及ビ、幕
 府ノ士族等、我が所有ノ地ヲ當トスルモノ、多カ
 リシガ、返濟及バズシテ地ヲ町會所ニ歸スルモ
 ノ少カラズ、後ニ此地千餘所ニ及ビ、年々收ムル
 所ノ地代金、萬餘金ニ至レリ、今東京市中諸橋梁
 修造及ビ、瓦斯燈養育院ノ費用ハ、皆此ノ豫備金
 ニ出シル地ノナリ、惜ム可シ、彼ノ七十萬金モ、今
 残リ少ク、町會所所有地モ、近頃賣拂フト聞ヘタ
 リ、思フニ件ノ地價モ、四十萬ニ至ルベシ、之ヲ以
 テ、東京市民ノ為ニ、無窮ノ洪益ヲ関カバ、賢者ノ

餘惠モ空シカラズ、後世ニ至リテ朽ガルベシ、嗚
 呼樂翁公ノ時ニ當リテ、其命ズル所ハ、僅ニ一條
 ノ法令ニ過ギズ、然レドモ、其澤ヲ百年ノ後ニ及
 ス、此ノ如シ、賢者ノ用意實ニ凡人ノ及ブ所ニ
 アラズ、世公ハ善政ヲ稱スルモ、ハ多ケレドモ、茲
 ニ及バズ、聊カ聞ケルマ、ハ、記シテ、世ハ模範ト
 ス、依田百川。

瓦斯文明ノ
 光ヲ添エ石
 橋開化ノ眼
 鏡ヲ懸ク賢
 者ノ餘惠固
 ヲリ空シカ
 ラザルナリ
 只節儉力行
 ノ公意ニ非
 アルヲ惜ムナ
 リ

偶續今體名家文抄卷之五大尾

美作國南郡
 高取町
 藏本

甲府常盤丁

内藤傳右衛門

東京日本橋通二丁目

稻田佐兵衛

同 淺草茅町二丁目

北澤伊八

同 芝太神宮前

牧野吉兵衛

同 日本橋通三丁目

丸屋善七

同 芝三嶋丁

山中市兵衛

同 日本橋通二丁目

小林新兵衛

010190527960

